



浜松医科大学 統合報告書 2023

この報告書は、浜松医科大学の将来構想(ビジョン)に関する目標・戦略の進捗状況及びその検証結果と財務情報を組み合わせて、大学を支えていただいている皆様方へ分かりやすくお伝えできるように心がけて作成いたしました。

建学の理念

第1に優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する。

目的及び使命

浜松医科大学は、医学・看護学の教育及び研究の機関として、最新の理論並びに応用を教授研究し、高度の知識・技術及び豊かな人間性と医の倫理を身に付けた優れた臨床医・看護専門職並びに医学研究者・看護学研究者を養成することを目的とし、医学及び看護学の進展に寄与し、地域医学・医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康増進並びに福祉に貢献することを使命とする。

INTEGRATED REPORT 2023

HAMAMATSU UNIVERSITY SCHOOL of MEDICINE

Contents

浜松医科大学とは	2-16	内部統制の整備に関する情報等	29-30
2 建学の理念、目的及び使命		29 運営組織図、内部統制	
3 学長メッセージ		30 国立大学法人ガバナンス・コードへの対応、研究費の不正使用防止及び研究活動の不正行為防止への対応	
9 浜松医科大学将来ビジョン			
11 浜松医科大学将来ビジョンの達成に向けて			
13 第4期中期目標・中期計画			
		財務情報	31-36
《Topics》		31 国立大学法人の会計制度	
15 次世代創造医工情報教育センター		32 財務諸表等の概要	
		35 医学部附属病院の財務状況	
将来ビジョン達成に向けた取組	17-28		
17 教育		浜松医科大学基金	37-38
19 研究			
21 医療			
23 社会連携・地域連携		関係されるすべての皆様へ	39
25 業務運営			
27 2022年度から 2023年度の主な施設整備			



地域の「知の拠点」として
地方創生の牽引役としての取組を
今後も強化してまいります。

地域の皆様と共に 未来を創る浜松医大

本報告書は、経営状況を明らかにした財務情報と併せて本学の具体的な取組を紹介することにより、「浜松医科大学の今」を学生、卒業生、地域住民、地方自治体及び産業界等の全ての本学に関係する皆様に、より分かりやすくお伝えするため2021年より統合報告書として刊行しています。

本学の長期的な方向性を端的にお示しするため2021年度に策定した「将来ビジョン」に掲げている「教育」、「研究」、「医療」、「社会連携・地域連携」、「業務運営」のそれぞれの分野の目標に関して、これまでの取組状況や今後の展望を、担当理事・副学長のメッセージと併せてご紹介しております。皆様におかれましては是非ご一読いただき、本学の目指す未来やそれに向けた活動状況についてご理解賜れば幸いです。

さて、取組の詳細については各々項目立てしておりますので、本稿では将来ビジョンに沿った進捗状況を概説させていただきます。

浜松医科大学長

今野 弘之

A Message from The President



教育

入試改革と教学改革

教育においては、これまで入試改革とともに教学改革を進めてきました。入試においては、アドミッション・ポリシー(入学者受入れ方針)に基づき学力の3要素を多面的・総合的に評価するために入学者選抜方法を改革し、面接におけるプレゼンテーションの導入や個別試験重視の配点への変更を実施しました。これは「記憶力」から「論理的思考力、判断力、表現力」へという国の方向性を先取りしたものです。

学部教育において、医学科については2021年度に抜本的なカリキュラム改革を実施しました。従来から実施している6年一貫らせん型カリキュラムを更に実質化した新カリキュラムでは、豊かな人間性と高い倫理観に基づく共感力、コミュニケーション力等を身に付けるため、倫理学、心理学等の行動科学の修学を6年間に渡って行います。

また、実験実習については、科学的探究心を育むために、自然科学から基礎医学、基礎配属(基礎医学研究室での研究体験・研究成果の発表)へ続く連続したカリキュラムとしました。

さらに、異文化や人種等の多様性の理解に必須である英語の修学にも焦点を当てています。インターネットを利用した基礎英語学習、医学英語(専門用語)の学修や臨床実習における英語でのプレゼンテーションの実践など、6年間に渡る英語教育を行うことで、卒業時に英語で医学や医療の討論ができ、国際的視野に立って活動することができる人材を育成します。

また、看護学科においては、地域社会の看護の質向上や国際的視野を持つ看護職者の育成を目指し、看護学教育モデル・コア・カリキュラムに示される内容を踏まえてカリキュラムの見直しを図り、学生や実習先の指導者を交えた検討会を重ねて2022年度の保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正を機に新たなカリキュラムをスタートしました。

なお、2022年度には、医学科とともにVR(仮想現実)機器を使用した教育を開始し、情報技術を活用した新しい教育方法の導入にも取り組んでいます。2024年度には看護学分野別評価の受審を予定しており、教育プログラムの自己点検評価や、外部評価者による評価を通して、教育の質の維持・向上を図ります。

新たな視点からの取組

さらに、内閣府、文部科学省から多大なご支援をいただき2022年4月に設置した次世代創造医工情報教育センターにおいて、データサイエンス教育やAI技術を基盤とし、社会課題の解決に挑戦できるデザイン思考やアントレプレナーシップ(起業家精神)教育を行うという全国の医学部でも特徴的な取組を実施しています。地域のスタートアップ企業の代表や起業経験を持つ医師を招いた授業や、起業、製品開発を視野に入れたゼミの開催、学生を対象としたアイデアコンテストを開催する等、チャレンジマインドにあふれ、新しい視点で課題解決に積極的に取り組む医療人を育成します。

大学院教育においても、医学専攻では留学生を含め常に定員以上の応募があり、優れた大学院生の確保が

可能となっています。2018年度に我が国で初めて開設した静岡大学との共同専攻である光医工学共同専攻(博士後期課程)では、引き続き光・電子工学と光医学の双方に精通している高度専門人材を育成します。

また、2022年度から看護学専攻(博士後期課程)がスタートしました。高い倫理観と国際的視野を備え、異分野と融合して看護学分野での新たな価値を創出する教育・研究によって社会に貢献できる人材を養成します。

さらに、看護学専攻(博士前期課程)では老年看護(2021年度)に引き続き精神看護(2022年度)の高度実践看護コースも開設しており、特定の分野で必要とされる資質・能力を意識し高度化することで、その分野をリードし中心となって活躍できる実践的な能力を備えた高度専門人材を養成していきます。

研究

先端医学研究の推進

研究においては、本学の強みである光医学研究に関する最新の研究機器と高度な技術スタッフや蓄積したノウハウからなるイメージングコンプレックス体制(細胞から動物個体までのあらゆる階層の対象を用いて、光技術や分子イメージングの研究を推進できる体制)を活用し、様々な成果を上げてきました。また、2020年度には全学的な研究戦略を立案する組織として研究戦略室を新設し、その下に研究分野ごとに5つのワーキンググループを設置するなど、研究体制を更に強化し、先進的で特色ある研究を推進してきました。

これらの研究を更に鋭化させ、光応用医学、領域横断的な先端医学研究を展開することを目的として、イメージングコンプレックス体制の中核組織である光先端医学教育研究センターを母体とした新たな研究所を設置する予定としています。本研究所の設置により光医学研究を更に推進するとともに、こころの病や遺伝性疾患など、未解明の課題に対して基礎研究者、臨床研究者が一体となって取り組み、治療法の開発につなげます。加えて、情報学等の他分野の知見を取り入れながら特色ある分野横断的研究を推進し、同時に新しい医療技術・システムの開発やビッグデータ解析を行うことにより、心身ともに健康な社会の創成を目指します。そのためにも、次世代の中心となる有望な若手研究者支援等への戦略的な研究支援についても引き続き力を入れていきます。

また、この度、地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究施設整備事業(文部科学省)に提案大学及び連携大学としてそれぞれ採択されました。本事業の目的は、研究力を活かして国内外の社会課題解決や新産業創出などのイノベーション創出に貢献する施設を整備することとされており。

提案大学としての事業については後述しますが、藤田医科大学の連携大学として申請した「精神・神経病態研究拠点の形成」事業においては、新たに「神経機能分子解析施設」を整備する予定であり、マスイメージングや3Dイメージング技術等の共有化による神経機能分子解析研究基盤を創生し、脳神経病態研究の推進と広範囲な共同研究の活性化を促し、創薬等の社会実装を促進することを目的としています。

医療

附属病院先端医療センターの稼働

医療においては、ここ数年、新型コロナウイルス感染症対応に注力し、厳しい局面もありましたが、職員一丸となり、なんとか乗り越えようとしています。今後も引き続き感染症の動向を注視するとともに、増加する医療ニーズに応えるべく、2022年1月に稼働開始した附属病院先端医療センターの効果的な稼働に力を入れています。これに加え、臓器別病棟再編及び臓器別センターの設置、HCU(高度治療室)の新設、土日祝日入退院の運用開始、病床管理システムの導入等を行い、患者さんの利便性や診療効率、病床運用効率の向上、診療協力体制の強化を図っています。

卒後教育の充実

卒後教育にも注力しており、初期研修においては、研修環境やプログラムの充実などにより、2022年のマッチング率※は大幅に向上しました。専攻医研修においては静岡県内で唯一、専門基本領域19 全てのプログラムを提供し、県内への専攻医定着に寄与しています。学部教育においても静岡県の医師不足地域での総合診療・家庭医療実習を引き続き実施するなど、学部教育から卒後教育まで一貫して地域医療に貢献できる人材の育成に努めています。

また、看護キャリア開発センターでは、チーム医療の促進のために医療安全のもと特定行為を行う看護師の育成や、管理者として優れた資質を持ち、創造的に組織を発展させることができる能力を有する認定看護管理者の育成を行っています。このような取組により、医療・看護の質の向上につながると期待しています。

医療のデジタルトランスフォーメーションと働き方改革

さらに、メディカルDX(医療分野において、デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること)により、患者さんのみならず、医療従事者にとってもフレンドリーな環境を提供するスマートホスピタルの実現を目指しています。情報技術の活用によって安全で高度な医療を提供し、医療の質や患者さんの利便性を向上させるとともに、院外からの電子カルテ利用体制構築による医療情報の共有化などをはじめ、限られた医療資源(特に人的資源)を最大限活用するために、近隣医療機関等との連携による病院の集約化・機能分化を推進し、自然災害や新興感染症発災時においてもレジリエント(困難に直面した際に適応できるしなやかな強さ)な医療ネットワークを構築することで、持続可能な健康社会の創出を目指します。

また、病床再編に伴う当直体制の大幅な見直しや、医師の負担となっている症例登録業務を一元的に担うDataOpsセンターの新設、看護師をはじめとした多様なメディカルスタッフの質的向上によるタスクシフト(従来、ある職種が担っていた業務を他職種に移管すること)に取り組むなど、誰もが心身の健康を保ちながら、いきいきと医療に従事できる職場環境を目指し、医療従事者の働き方改革を推進しています。

※医学部を卒業し、医師になった者の初期研修先を決めることをマッチングと言い、マッチング率が高いほど、募集定員に比べ研修希望者が多い病院と言える。

社会連携・地域連携

地域の医工連携拠点として

産学連携においては、2018年度に新たに設置した医工連携拠点棟内に産学連携に関する組織を集約し、地域の大学、産業界及び自治体等で構成され、本学が中心となって運営している「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点(通称:はままつ医工連携拠点)」が主体となって、地域の医工連携ワンストップ窓口(そこへ来れば医工連携の情報共有ができ産学官金の連携による研究開発が推進できる窓口)として活動することで、地域企業とのネットワークの構築を行ってきました。

2024年度にはものづくり企業が多数集積する浜松地域でこれまで産学官金が一体となって進めてきた、はままつ医工連携拠点の活動を核として、大学の外に産学官連携実施法人を立ち上げ、大学の垣根を越えた新しい産学官連携拠点を形成する計画を進めています。関連各機関の専門家と協力しながら、企画、研究開発、製品化までの一連の流れを法人自らが担うことにより、スピーディでかつ目標達成を重視した産学連携活動を行うことが可能となります。

また、先述の地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究施設整備事業において本学が提案機関として採択された「ホスピタル・ラボ」は、病院の手術室、診察室、病室を模したオープンラボで、新規医療技術の実証、新技術のテストの場であり、これまでにない新しい取組です。ホスピタル・ラボを通じて、研究開発と事業化をつなぐ場が生まれ、地域と一体となったスタートアップ企業育成、企業誘致等により、浜松を健康医療産業の一大都市にしていこうと目指します。

さらに、今年度設置する「地域創成人材養成センター」では、地域の社会課題、感染症を含めた災害、原子

力災害、救急医療等の社会課題を解決するために、浜松市等の自治体及び中部電力や地域企業と連携・協力して、本学の強み・特色であるメディカル領域におけるDXを活用した支援を実施し、本学における地域貢献活動を強化するとともに、地域の課題解決に貢献できる人材を育成していきます。

業務運営

健全な財務状況の維持

財政状態に関して申し述べますと、国立大学法人に対する国からの運営費交付金が減少傾向にあるため、これを補い安定的に法人運営を行うために、学内研究費支援等による外部研究資金の獲得促進、寄附講座の積極的な受入れ及びクラウドファンディングの実施等の外部資金獲得に資する取組を行ってきました。また附属病院においては、病院収益及び手術件数は順調に増加しており、昨今の電気料の高騰に対しても、経費削減を恒常的に意識し、医療材料の見直し等を継続的に実施したことなどにより、順調な運営を行っており、法人全体としても健全な財務状況を維持しています。

これらの取組を継続しながら、新たな産学官連携推進体制の構築による民間企業等からの資金の受入れ促進や、投資信託による資産運用等の拡大に向けた取組を通じて、財源の多元化と安定的な財務運営に努めます。

本学の教職員一丸となり、地域の「知の拠点」として、地域の皆様や地方自治体、産業界、他の教育研究機関と連携しながら、地方創生の牽引役としての取組を今後も強化し、2024年度の開学50周年を契機に新たな飛躍を遂げるべく邁進してまいります。今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



浜松医科大学 将来ビジョン

本学は、建学の理念並びに目的及び使命を掲げ、その実現に向け建学以来、努力を続けてまいりました。今後も教育、研究、医療及び社会連携・地域連携活動の一層の充実により、地域社会や国内外の諸課題の解決に取り組むため、教学及び業務運営を包含した将来ビジョンを策定いたしました。この将来ビジョンは、学外関係者の皆様には、本学の長期的な方向性や目指すべき姿を示すものであり、学内の教職員には、中期目標・中期計画をはじめとした具体的な施策の拠り所になるものであり、多様なステークホルダーが共通認識を持つことによりその実現に向け大きな推進力となるものです。

今後も、関係者の皆様に、将来ビジョンの達成に向けてロードマップ等を示し、具体的な取組の進捗状況などをご報告いたします。



建学の理念

本学が建学されたときに設定した、大学の最も根幹となる理念

目的及び使命

建学の理念に基づき、時代に合わせ見直したもの

将来ビジョン

学長が目的及び使命を踏まえて描く、中長期的な方向性や目指す姿

中期目標・中期計画

国立大学法人法で定められる一期6年間に
おいて達成すべき業務運営に関する目標と
それを達成するための計画

web

中期目標・中期計画は、ホームページで公表しています。
<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/mid-term-goal/index.html>



教育



時代が激変する中で、医師、看護師に求められる知識、技術は増すばかりですが、本学は引き続き高度な能力を備えた専門性の高い医師、看護師を育成します。さらに、患者さんの価値観や特性など多様性を理解し、他職種と連携しながら患者さんの意思を尊重した最善の医療を提供できる医療人の育成に努めます。加えて、研究熱心で未知の生命現象の解明や疾患の克服等につながる重要な研究成果を世界に発信できる独創的な医学・看護学研究者を養成するとともに、既存の学術領域を超え、新しい医療技術を社会実装するなど、社会課題に挑戦するアントレプレナーシップ(起業家精神)を持った人材の育成を新たに目標として掲げました。

- 多様性への理解と国際感覚に裏打ちされた豊かな人間性を持ち、患者第一主義のチーム医療を実践できる医療人の育成
- 独創的な先端研究に取り組み、成果を世界に発信できる研究者の育成
- 高度な知識と技術を有し、優れた実践能力を持つ専門人材の養成
- 社会課題に挑戦し、新たな価値を生み出すアントレプレナーシップの涵養

研究



本学の強みである光の医学応用に関する最新の研究機器と高度な技術スタッフや蓄積したノウハウからなる研究を推進できる体制(イメージングコンプレックス体制)を活用し、光医学研究をさらに推進するとともに、こころの病や遺伝性疾患など、未解明の課題に対して基礎研究者、臨床研究者が一体となって取り組み、治療法の開発につなげます。また、工学・情報学等の他分野の知見を取り入れながら特色ある分野横断的研究を推進し、同時に新しい医療技術・システムの開発やビッグデータ解析により、心身ともに健康な社会の創成を目指します。

- イメージングコンプレックスを活用した先端的な光医学研究の進展
- こころの病や遺伝性疾患等の基礎・臨床が一体となった研究の推進と治療法の開発
- 工学・情報学等との分野横断的研究の推進によるイノベーションの創出
- 新しい医療技術・システムの開発やビッグデータ解析によるウェルネスの創成

医療



メディカルDX(医療分野において、デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること)により、より安全で高度な医療を提供し、医療の質や患者さんの利便性を向上させるとともに、看護師をはじめ、多様なメディカルスタッフの質的向上によるタスクシフト(従来、ある職種が担っていた業務を他職種に移管すること)に取り組み、医療従事者にとってもフレンドリーな環境を提供するスマートホスピタルの実現を目指します。また、専門医や特定看護師など地域医療の中核を担う高度で専門的な能力を有した医療人の育成を強化します。さらに、医療情報の共有化などをはじめ近隣医療機関等との連携により集約化・機能分化を推進しレジリエント(困難をしなやかに乗り越え回復する力)な医療ネットワークの構築に取り組みます。

- メディカルDXにより効率的かつ安全で高度な医療を提供するスマートホスピタルの実現
- 地域医療の中核を担う高度な能力を有した医療人の育成
- メディカルスタッフによるタスクシフトをはじめとする医療従事者の新たな働き方の実践
- 集約化・機能分化によるレジリエントな医療ネットワークの構築

社会連携 地域連携



これまで培ってきた、民間企業、地方公共団体、教育研究機関、金融機関等との連携を強化し、革新的な技術の創出とベンチャー企業の育成等により医療を基盤とした産業創出を目指します。さらに、地方創生・価値創造の中核として、地域や他大学と連携し、インクルーシブ(社会的に包容力のある)で持続可能な「ウェルネス(より良く生きるための生活を目指す)社会」の創出に貢献します。

- 産学官金連携推進体制の強化による革新的な技術の創出とベンチャー企業の育成
- 地方創生・価値創造の中核として、地域や他大学と連携したインクルーシブで持続可能な「ウェルネス社会」の共創

業務運営



この統合報告書等を通じて関係者の皆様との対話により本学に期待される機能や役割を理解し、外部有識者の助言をいただきながら、調査研究を充実させ、客観的な指標に基づく大学運営を行います。また、国からの運営費交付金とともに多様な財源の確保を図り、資産運用等の拡大により安定的な財務運営に努めます。さらに、施設・設備整備を通じて、地域医療を支える附属病院の機能強化や、高度な情報技術を基盤とし、キャンパス全体が有機的に連携し、学内のみならず、地方公共団体、産業界、他の教育研究機関等との共創の拠点(イノベーション・コモンズ)となるよう取り組みます。

- 外部有識者やその他ステークホルダーとの対話とエビデンスに基づく戦略的経営
- 財源の多元化や資産運用等の拡大による安定的な財務運営
- イノベーション・コモンズの実現、病院機能の強化とデジタル・キャンパスの推進

浜松医科大学 将来ビジョンの達成に向けて

浜松医科大学のリソース

職員数

2,648名 ※1

職員数の内訳

- 常勤職員
 - ・教員…………… 397名
 - ・看護師等医療職員…………… 1,025名
 - ・事務、技術職員等…………… 204名
 - 非常勤職員…………… 1,022名
- ※1) 2022年5月1日現在

固定資産

380億円 ※2

固定資産の内訳

- 土地…………… 64億円
 - 建物・構造物…………… 234億円
 - 設備…………… 63億円
 - 図書…………… 3億円
 - その他…………… 16億円
- ※2) 2022年3月31日現在

投資額

393億円 ※3

投資額の内訳

- 教育研究経費…………… 18億円
 - 診療経費…………… 175億円
 - 外部資金…………… 31億円
 - 人件費…………… 139億円
 - 施設整備費…………… 11億円
 - 一般管理費…………… 5億円
 - その他…………… 14億円
- ※3) 2022年度決算より

リソースの活用による目標達成への流れ

本学は、将来ビジョンを掲げ、その達成に向けて様々な活動を実施しています。

このページでは、2022年度(一部2023年度)に本学が実施した主な活動を中心に5つのビジョン毎に区分し、本学が保有するリソース(人的資本や資金など)が、各ビジョンの目標達成に向けて、どのようなアウトプット(成果)及びアウトカム(成果によってもたらされる効果)を生み出しているか、その流れを表しています。



浜松医科大学とは

インプット

主な活動

主なアウトプット

主なアウトカム

5つのビジョン

第4期中期目標・中期計画

2021年度で第3期中期目標期間(2016~2021年度)が終わりを迎え、2022年度から第4期(2022~2027年度)が始まりました。これにあたり、文部科学省が提示した国立大学法人中期目標大綱から本学の将来ビジョンを踏まえて中期目標を選択し、その目標を達成するための中期計画を文部科学省に申請し認可を受けました。

関係者の皆様の期待に応えるべく、第4期は、これらの計画を遂行してまいります。

本学中期計画〔概要〕

I 教育研究の質の向上に関する事項

1 | 社会との共創

- ・デザイン思考(問題解決においてデザインの手法や過程を活用する考え方)やアントレプレナーシップ(起業家精神)の素養を持った人材の養成
- ・新たな医療産業創出によりインクルーシブ(社会的に包容力のある)で持続可能なウェルネス(より良く生きるための生活を目指す)社会の創生に貢献
- ・新興感染症や自然災害などに対してレジリエント(困難をしなやかに乗り越え回復する力)な地域医療体制の構築

2 | 教育

- ・学修成果基盤型教育の質の向上を目的として改訂した新しい教育課程の実施
- ・他大学や企業等との連携による数理データサイエンスやAI教育等の充実
- ・アクティブラーニング(能動的学習)形式授業の発展
- ・光医工学共同専攻の発展及び看護学専攻(博士後期課程)の新設
- ・高度実践看護コースの充実
- ・国際的視野に立って活動できる人材の育成
- ・海外からの優秀な留学生の獲得

3 | 研究

- ・基盤経費の積極的措置や研究機器の共用化などによる研究基盤の強化
- ・光医学研究の卓越性を更に伸ばさせた新たな研究拠点の創設やイメージングコンプレックス体制(細胞から動物個体までのあらゆる階層の対象を用いて、光技術や分子イメージングの研究を推進できる体制)の高度化
- ・光医学やナノスツ技術を応用した分野横断的アプローチによる課題解決並びに新規診断治療法及び治療薬開発等の実用化の推進

4 | その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項

- ・地域の産学官連携拠点としての中核機能の更なる強化
- ・附属病院における情報技術の活用などによる安全管理体制の強化
- ・高度医療・低侵襲医療の推進
- ・初期研修・専門医研修プログラムの充実
- ・メディカルDX(医療分野において、デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること)の推進や近隣の医療機関等との緊密な連携による効率的な地域医療体制の構築

II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

- ・外部有識者の知見を生かした大学経営とガバナンス体制の強化
- ・キャンパス環境の向上を図る施設整備

III 財務内容の改善に関する事項

- ・民間企業等からの資金の受入れ促進をはじめとする財源の多元化と安定的な財務運営並びに戦略的な学内予算配分の推進

IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

- ・客観的データに基づいた自己点検評価
- ・統合的な年次報告書等による情報発信や多様なステークホルダーとの対話の実施

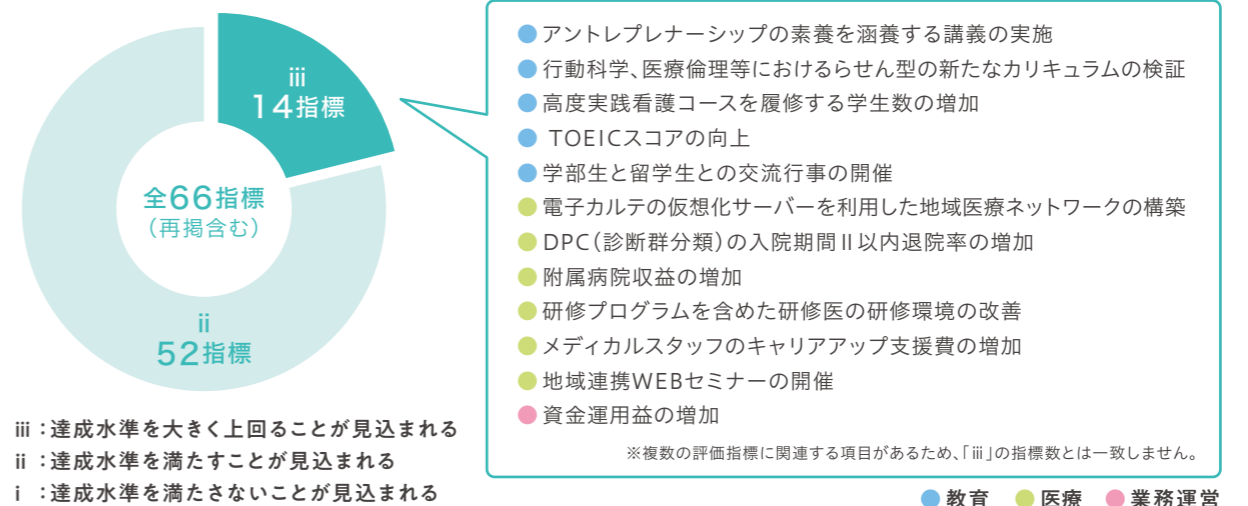
V その他業務運営に関する重要事項

- ・業務の見直しとデジタル技術の活用によるデジタルキャンパスの推進

2022年度実績に関する自己点検・評価結果について

国立大学法人法の改正により文部科学省による毎年度の業務実績に係る評価が廃止された代わりに、各大学における自己点検・評価の徹底と公表が求められています。

本学が中期計画の各評価指標(66指標(再掲含む))の進捗状況について自己点検・評価を行った結果は以下のとおりです。



web 2022年度実績に関する自己点検・評価結果は、ホームページで公表しています
<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/disclosure-info/eval-info/daigakuhyouka.html>



次世代創造医工情報教育センター(Nx-CEC)



多様な立場の人たちと対話しながら、新しい価値を「共」に「創」り上げていく。

2022年4月に、文部科学省及び内閣府の国立大学イノベーション創出環境強化事業のご支援を頂き、次世代創造医工情報教育センター (Next Generation Creative Education Center for Medicine, Engineering, and Informatics; Nx-CEC) が開設されました。

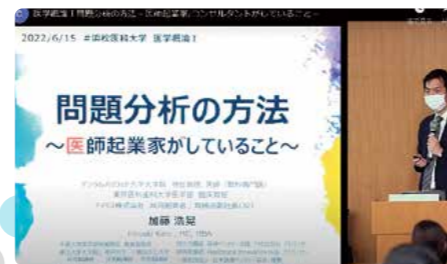
当センターの開設は、第4期中期計画に掲げた「社会課題の解決に挑戦できるデザイン思考やアントレプレナーシップの素養を持った人材を養成するための組織を整備する」を踏まえた取組となります。当センターは「アントレプレナーシップ部門」と「データサイエンス部門」の2部門により構成され、起業家精神を持った医療人、デザイン思考に基づく医療機器開発を行う素養を持った人材など、社会の課題解決に挑戦する人材を育成してまいります。

■ アントレプレナーシップ部門

アントレプレナーシップは、日本語では「起業家精神」と訳されます。日本ではベンチャー企業等の起業が欧米に比べて極端に少ないこともあり、近年、大学教育においてもアントレプレナーシップが頻繁に言及されるようになってきました。

卒業後は国家試験を受験し、医療人となり、臨床現場で研修を積んで、専門性を身に付けていくというコースがほぼ定まっている医学部生に、なぜ「起業家精神」が必要なのか、と考える方も多岐にわたるかもしれません。しかし、我々が考えるアントレプレナーシップは、社会や医療の中で生じる様々な問題点に対して、イノベーションの創出を通して果敢にチャレンジしていく能力を獲得し、その解決に向かって実践すること、それこそがアントレプレナーシップであると考えています。イノベーションの創出というと、これまた何か難しいことのように思えますが、問題点を解決するために、新しい視点から様々な工夫をすること、その全てがイノベーションとなります。このように考えると、アントレプレナーシップは、あらゆる医療人にとってきわめて重要な能力の一つです。

Nx-CECでは、学生/大学/病院発ベンチャーの実現促進、ウェルビーイング(幸福で肉体的、精神的、社会的全てにおいて満たされた状態)に資する機器やアプリケーション等の研究・開発を進め、社会ニーズも踏まえた地方創生への貢献にもつながる先進的な取組を実施します。



地域のスタートアップ企業の代表や医師起業家を講師に招きアントレプレナーシップ講義を実施しています。

■ データサイエンス部門

政府が2019年に発表した「AI戦略2019」では、AI人材を育成するための仕組み作りが戦略目標として定められ、文理を問わず全ての大学・高専生が「数理・データサイエンス・AI」の初級レベルの能力を習得し、自らの専門分野への応用基礎力を習得することが掲げられています。

このような状況を受け、本学においても2022年4月より、データサイエンス教育が開始されました。2022年度は静岡大学情報学部から3名の非常勤講師を招き、最先端のAI・データサイエンスについてご講義いただきました。さらに、2023年度には本学のデータサイエンス教育プログラムが文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に認定されました。

Nx-CECで取り組むデータサイエンス教育により、ビッグデータ解析やAI活用の手法を身に付けた医療人を養成し、医療現場の諸課題に対して、最適な解決方法を探し創出する人材の育成を目指します。



● 学生によるプログラミング講演



医学科5年生の学生が講師となり、教職員向け講習会「独学でプログラミングを習得するためのアドバイス」を実施しました。講師の鈴木さんは、本学入学後に独学でプログラミング学習を始め、その後研究室の指導の下ゲノムデータや発現量解析のデータを活用したプログラムを構築し、研究に応用して論文発表に貢献するなど、多岐にわたり活躍しています。

講習会では、プログラミングを始めたきっかけや挫折から立ち直った経験・プログラミング初心者が習得のために必要な知識や実践方法などが具体的かつユーモアを交えて紹介されました。

講習会では、プログラミングを始めたきっかけや挫折から立ち直った経験・プログラミング初心者が習得のために必要な知識や実践方法などが具体的かつユーモアを交えて紹介されました。

● 「浜医やらまいかピッチ」の開催



学生を対象としたアイデアビジネスコンテストを実施し、広く社会に貢献できるような医療・ヘルスケア分野のアイデアや、本学の大学環境の改善に関するテーマで学生がプレゼンテーションを行いました。

本学では、アントレプレナー育成プログラムの一環として、学部生・大学院生を対象に医療・看護・ヘルスケア分野における起業家精神と資質・能力を育む機会の創出を行っています。

● 地域貢献

地域貢献についても、DX(デジタル技術)を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること)推進の視点から当センターは力を入れています。2022年度には、大学の主催する社会貢献事業の一環として地域の小学生高学年向けに「#学ぼう! 脳のしくみ#やってみよう!新しいアイデアのひらめき教室」を開催しました。



人間の脳の神経回路とAIについて勉強し、脳パズルをしたり、ピンセットで折り紙をして上手になるための工夫を考え、ひらめきのスキルを学ぶ体験型教室を実施しました。

● 学生アイデアの実証

浜医やらまいかピッチで学生から提案されたアイデアの検証第1弾「浜医カフェ」を開催しました。浜医カフェは『学生・職員・企業などの交流の場を提供し、新たなアイデア・取組が生まれる場を創出する』ことを目的としています。

ビジネスモデル構築、各所への企画提案、設営等々、学生が講義の合間を使って活動しました。



教育

次世代で輝く医療人の養成



副学長(教育担当)
梅村 和夫

新型コロナウイルス感染症も5類へと移行し、すべての講義は対面授業で行われています。また、海外での臨床実習も再開しました。さらなる国際化を目指して、海外での基礎研究、語学研修、ボランティア活動がさらに進むように医学科では「海外研修1・II」という科目を新設し、低学年から海外での経験を積めるような環境を整備しました。

コロナ禍で学生間や学生・教員間でのコミュニケーションが十分とれない期間があり、コミュニケーション能力の低下が懸念されています。また、指示待ちのような消極的な行動が増えてきていることも危惧されています。それらに対し、リフレクション教育を進めています。「リフレクション」の日本語訳は「省察」ですが、反省するだけでなく、自分の良いところも評価し、次の行動を起こすための分析をします。リフレクションの習慣を身に付け、臨床実習や臨地実習で実践できるように、カリキュラムを構築しています。

看護学科では、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正を機に改定した新カリキュラムを2022年度入学生から適用しています。また、日本看護学教育評価機構による看護学分野別評価を2024年度に受審予定であり、現在準備を進めています。

大学院教育では、昨年度看護学専攻博士後期課程を開設し、3名の2期生を迎えたところです。博士前期課程は、修士論文コース、高度実践看護コース(老年看護・精神看護)、助産師養成コースの3コースを擁し、共に教育・研究・実践の場で活躍する高度人材を養成します。

将来ビジョン

- 多様性への理解と国際感覚に裏打ちされた豊かな人間性を持ち、患者第一主義のチーム医療を実践できる医療人の育成
- 独創的な先端研究に取り組み、成果を世界に発信できる研究者の育成
- 高度な知識と技術を有し、優れた実践能力を持つ専門人材の養成
- 社会課題に挑戦し、新たな価値を生み出すアントレプレナーシップの涵養

主なロードマップ	～2021年度	2022年度	2023年度	2024年度～
医学科新カリキュラム			実施	
看護学科新カリキュラム	検討	達成		実施
高度実践看護コースの新設			老年看護学開設	
	検討	達成	精神看護学開設	
看護学専攻(博士後期課程)の設置	検討	達成	開設	
講義実習棟の改修		改修工事		利用開始
次世代創造医工情報教育センターの設置(アントレプレナーシップ教育)	設置準備	達成	活動開始	
数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の申請		申請準備	達成	認定

2023年度医学部入学者選抜実施状況

医学科

入試区分	募集人員	志願者数			受験者数			合格者数			
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	
一般選抜	前期	75	306	189	495	158	98	256	48	27	75
	後期	15	190	124	314	42	30	72	9	11	20
推薦	25	33	32	65	32	31	63	13	12	25	
海外教育プログラム	若干名	5	4	9	5	3	8	2	0	2	

看護学科

入試区分	募集人員	志願者数			受験者数			合格者数		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
一般選抜	40	4	80	84	3	64	67	2	39	41
推薦	20	0	47	47	0	46	46	0	20	20
海外教育プログラム	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人	若干名	0	1	1	0	1	1	0	0	0

医学科志願者数の大幅増

2023年度の医学部医学科の志願者数は、前期日程が495名、後期日程が314名となり、前期日程に至っては2017年度入試以来の400名を超える数となりました。

海外教育プログラム入試 合格率

海外教育プログラム特別入試において医学科に帰国生1名、留学生1名が入学しました。学部での留学生の合格者は2004年度入試以来となります。

2022オープンキャンパス

3年ぶりの対面実施。大学概要説明や入試説明のほか、模擬講義や在学生による体験談などのプログラムを実施しました。

VR機器を使用した教育

2022年度から、VR(仮想現実)機器を使用した教育を開始しました。医学科では仮想空間を応用した教育コミュニケーションシステムを導入し体験型教育を行うことで実臨床により近い教育プログラムを開始しています。看護学科では、設定されたVRのシナリオ課題に、各学生が取り組んでいます。



VRゴーグルを用いた 臨床実習

英語教育の取組

2022年度から医学科1・3・5年生、看護学科1・3年生を対象にTOEICの団体受験を再開しました。新カリキュラム(2021年度開始)を受講している学生が2023年度に初めてTOEICを受験(3年次)するため、成果を検証していきます。

海外留学の実施

2023年から11名の学生が海外で臨床実習を行うとともに、国際サービス・ラーニング※では、学生3名と医師2名がケニアに渡航し実習を行いました。また、海外留学報告会で海外留学の成果等の報告及び後輩等に向けた発表を行いました。

※サービス・ラーニング: 知識として学んだことを実際の奉仕活動に活かし、実際の体験から生きた知識を学ぶ教育

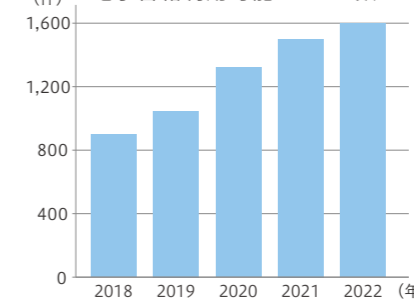


海外留学報告会の様子

電子書籍の充実

図書館では、スマート・ライブラリ構想に基づき、場所や時間を問わず利用可能な電子書籍の充実を目指しており、2018年度からの5年で利用できるタイトルが約2倍になるように整備を進めました。新着タイトルや展示の特集に関するタイトルは、利用者がアクセスしやすいように二次元バーコードを付けて紹介しています。2023年度からは更なる整備を進めるために、医学系分野の電子書籍を提供しているメディカルオンラインイーブックスライブラリーを導入し、6,000タイトル以上が利用できるようになりました。

電子書籍利用可能タイトル数

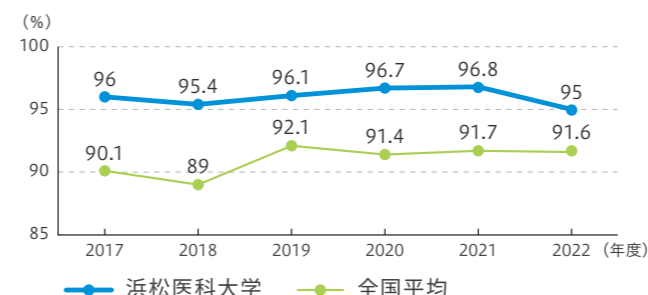


特集での電子書籍紹介の様子

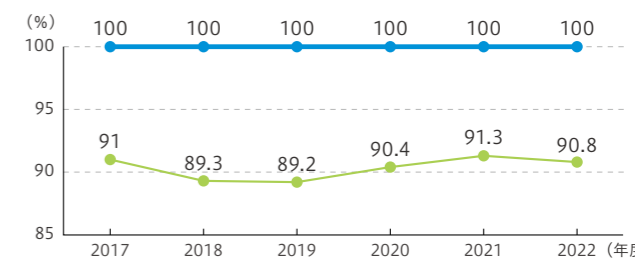
国家試験合格状況

2022年度の医師国家試験の合格率が低下したため、国家試験の学生の自己採点をもとに本学学生が誤答した問題を分析し、全国平均に比して誤答率の高い分野については関係講座に通知を実施しています。

医師 合格率



看護師 合格率



光医学総合研究所の設立と施設整備による本学研究の新展開



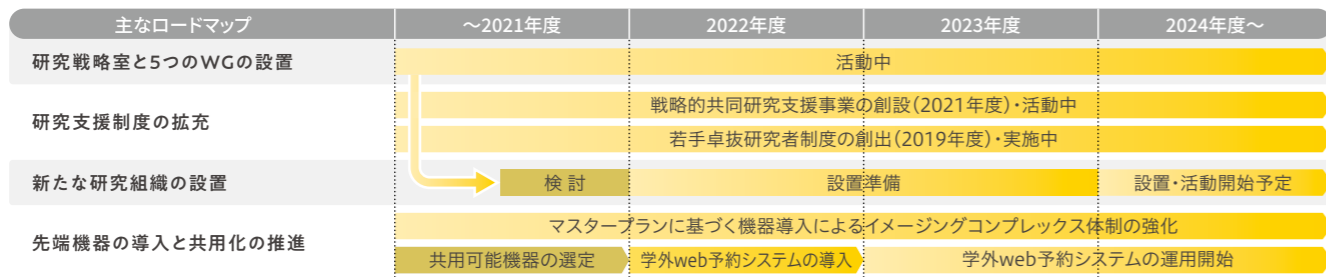
副学長(研究担当)
北川 雅敏

2024年に迎える開学50周年を前に、本学の研究は大きな一歩を踏み出そうとしております。本学はこれまで光先端医学教育研究センターを中心に光医学研究をその特徴として推進してまいりました。この度、このセンターを発展的に改組して本学研究の司令塔として機能する「光医学総合研究所」を設立します。光医学総合研究所では、PETなどの光量子技術をさらに先鋭化する一方で、低侵襲な診断法、治療法の開発を目指します。さらに先端医学研究を実践する新たな部署を設置し、基礎／臨床の双方向性トランスレーショナルリサーチを実践することによりアンメットメディカルニーズ(未解決で有効な診断法、治療法が望まれる疾患)の克服を目指します。

一方で、本学は文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」において、提案大学として申請した「ホスピタル・ラボ」の設置が認められました。この施設では、本学の医学研究成果に基づいた新規診断治療法や医療機器の開発を「次世代光医学研究成果創出拠点」として連携大学とともに進め、産学官連携による製品化を目指します。加えて、同事業において、藤田医科大学を提案大学とした「精神・神経病態拠点」の連携大学として「神経機能分子解析施設」の設置も認められました。ここではマスイメージング等を用いた神経解剖学的な先端アプローチにより、未知の神経機能分子の同定及び機能解明を目指します。これら二つの施設の設置により、「光医学総合研究所」を中心とした本学の先端医学研究が強力に押し進められ、アンメットメディカルニーズの病因病態解明が進み、新規診断治療法や医療機器の実用化が加速することが期待されます。

将来ビジョン

- イメージングコンプレックスを活用した先端的な光医学研究の進展
- こころの病や遺伝性疾患等の基礎・臨床が一体となった研究の推進と治療法の開発
- 工学・情報学等との分野横断的研究の推進によるイノベーションの創出
- 新しい医療技術・システムの開発やビッグデータ解析によるウェルネスの創成



光医学総合研究所・神経機能分子解析施設の設置

本学の強みである「光医学」の卓越性をさらに発展させ、革新的光技術の開発とそれを応用した難治疾患の病態解明及び新たな診断治療法、医療機器の開発を目指しています。そのための取組として「光医学総合研究所」を2024年度に新設し、静岡大学や研究機関等と「次世代光医学研究成果創出拠点」を形成し、産学官金連携で研究成果の社会実装を目指します。

光医学総合研究所は、既存の「光先端医学教育研究センター」を中心に発展的に改組するもので、本学の特色である光医学の研究基盤であり、かつ本学の研究の司令塔としての機能を担います。

また、2024年度には藤田医科大学と共に形成する「精神・神経病態拠点」の「神経機能分子解析施設」も新設します。この施設では、質量顕微鏡や3次元電子顕微鏡を用いた神経解剖学的な先端アプローチにより、未知の神経機能分子の同定及び機能解明を目指します。

光医学総合研究所

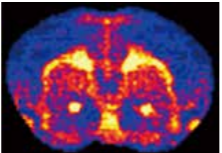
副学長(研究担当)を所長とし、所長を中心とする「研究戦略部門」が指揮し、医学部等が連携

研究の基盤となる多様な先端光量子関連技術 → 希少遺伝性疾患などのアンメットメディカルニーズ

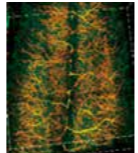
難治疾患の病態解明、新たな診断治療法、医療機器の開発を目指す

神経機能分子解析施設

質量顕微鏡や3次元電子顕微鏡を用いた神経解剖学分野の先端研究



質量顕微鏡によるマスイメージング

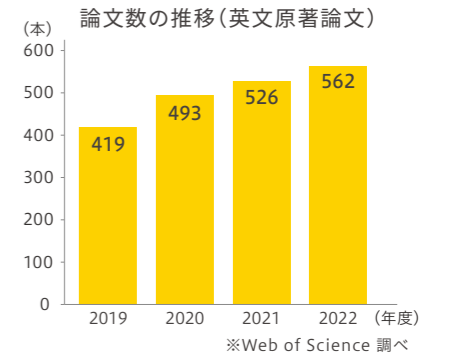


3Dイメージング

研究活動の推進

本学では、組織的、戦略的に研究費の獲得支援を行うことで、将来的に競争的資金等に採択される研究を増やすことを目的として研究費の学内助成事業を行っています。

助成事業の採択にあたっては、申請のあった全ての研究(100件程度)に対してヒアリングを行い、研究計画等の確認を行っています。また、審査は副学長(研究担当)、教授等によるピアレビューで実施しており、採択の決定のみならず、研究内容に関するアドバイスを行うことで研究のブラッシュアップを行っています。あわせて、その他の研究支援活動も行っており、これらの効果により、本学の英文原著論文数は、2019年度の419本から2022年度の562本へと増加しており、より多くの研究成果を世の中に送り届けています。



研究成果

HALスコア:3つの項目で間質性肺炎の急性増悪を予測

慢性的に経過する間質性肺炎が、突如として悪化し致命的な経過をたどる特殊病態は急性増悪と呼ばれ、その予測は極めて困難です。医学部附属病院腫瘍センターの柄山講師らは、胸部CTでの蜂巢肺*1の所見(H)、年齢が75歳以上(A)、血液検査でのLDH**2高値(L)という3つのシンプルな要素から、急性増悪のリスクを予測することが出来る HALスコアを世界で初めて開発しました。

HALスコアにより急性増悪のリスクを評価することで、間質性肺炎の適正な治療選択といった日常診療に活用されることが期待されます。

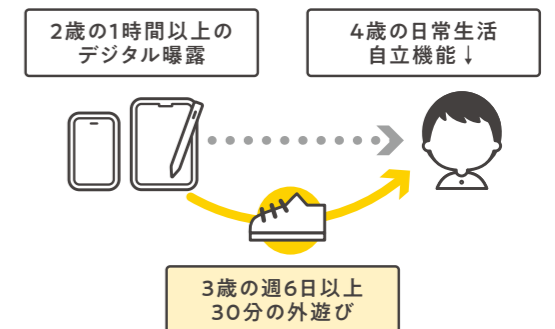
*1 蜂巢肺:進行した間質性肺炎で見られる、肺が蜂の巣状に変化した状態
**2 LDH:間質性肺炎が活発化し、肺臓器が損傷を受けると高い値を示す酵素

HALスコア	
項目	ポイント
胸部CTでの蜂巢肺(H)	1
年齢>75歳(A)	1
LDH>222U/L(L)	1
合計	3

外遊びが幼児期のデジタル視聴による神経発達への影響を弱める可能性を明らかに

幼児期のデジタル視聴はその後の神経発達に望ましくない影響を与えられているとされています。子どものこころの発達研究センターの土屋特任教授らは、その影響について1,258名の子どもの成長を継続して調査している「浜松母と子の出生コホート研究」において解析し、子どもに十分な外遊びをさせることで神経発達に望ましくない影響を20%程度弱めることができることを世界で初めて明らかにしました。

本研究成果をもとに、社会問題化している子どものデジタル視聴についてさらなる研究の発展が期待されます。



大型機器の導入

ポストコロナにおける研究として、病原体感染症のメカニズム解明の基盤となる研究を推進させるため、2022年度に「細胞形質・代謝エネルギー分析装置」を導入しました。

培養細胞モデル動物由来の細胞の形質(=性質)や、代謝エネルギーの変動を詳細に分析することが可能で、従来では得られなかった多様な生体データから特色ある研究の推進が期待されます。

国内外の研究機関及び地域の医療・工学関連企業と連携しながら、この研究設備を活用していきます。

細胞形質・代謝エネルギー分析装置



新しい浜松医大附属病院 - 目指せ9090達成プロジェクト -



副学長(病院担当)・病院長
松山 幸弘

新型コロナウイルス感染の勢いも消退し、通常の生活や医療が戻ってまいりました。まだコロナ感染が完全に終息したわけではありませんが、次の感染爆発に対する各病院の対応、連携システムを確立することが最も大切だと思います。

さて本学においては、2022年1月から放射線治療、低侵襲手術、がん化学療法、内視鏡検査、周産母子関係の機能拡張を可能とした先端医療センターの稼働、全病棟の臓器別センター化、8床のHCUや新しいハイブリッド手術室も設置し2023年度のスタートダッシュは整いました。

この新年度は勝負の年です。ウクライナとロシアの紛争を皮切りに始まった光熱費の高騰は想像を絶するものがありますが、他へ頼ることはできません。これからスタートする浜松医大は今までの本学の顔を忘れて新しい医大の顔に生まれ変わる必要があります。またそうでないこの困難を乗り越えられないと思います。すでに、4つの新しい手術室の稼働、病床センター化、ICU、HCU、NICUの充実、改修した新ハイブリッド手術室の稼働、そして病床稼働が見える化した新規病床コントロールパネルの導入を行っており、あとは我々スタッフ全員が力を合わせて病床稼働9割、手術件数9000件を目指してダッシュするのみです。方向性は見えています。そうです、目指せ9090達成プロジェクトです。新しい医大はそれができる病院であり、また全スタッフもその能力を持ち合わせた一致団結した集団と信じています。

物事を行う上で最も大切なのは、チーム全体の目指すゴールがシンプルで、一つの矢になることです。病院運営は決して容易な事ではありませんが、「患者さんを少しでも良くしたい、笑顔を取り戻してあげたい」といった情熱さえあれば、どんなに忙しくても、また患者さんが合併症に見舞われてお互いにつらい思いをしても、一緒に乗り越えることができる、そんな心意気を持ったチーム作りに力を注いできました。そんな情熱的で、チャレンジ精神旺盛なチームワークで、今後も、患者さんの病気を少しでも改善する方向へ導くこと、そして最善の治療法を追求し、積極的に最先端医療を取り入れ、皆様の期待に応える附属病院を目指していきます。

将来ビジョン

- メディカルDXにより効率的かつ安全で高度な医療を提供するスマートホスピタルの実現
- 地域医療の中核を担う高度な能力を有した医療人の育成
- メディカルスタッフによるタスクシフトをはじめとする医療従事者の新たな働き方の実践
- 集約化・機能分化によるレジリエントな医療ネットワークの構築

主なロードマップ	～2021年度	2022年度	2023年度	2024年度～
安全で高度な医療の推進	新型コロナウイルスへの対応強化	地域の感染制御に貢献することを目的に感染制御センターを設立	手術支援ロボット増設による運用強化	病床稼働率、手術件数の目標設定
メディカルDXによるスマートホスピタルの実現		外来診療WEB予約システムの構築準備		
臨床教育の充実	看護師特定行為研修センター設置による特定看護師の育成	達成	看護キャリア開発センター設立	
		臨床研修環境の改善、マッチング率の向上		
新たな医療ネットワークの構築	近隣医療機関との電子カルテ共有化準備	達成	稼働開始	
		地域連携バスの有効活用	達成	新たな地域連携バスの導入
医療従事者の新たな働き方の実践	準備	達成	Data Opsセンター設立	
	準備	達成	仮想化サーバー導入による当直体制の見直し	
病院運営・患者サービス		クラウドファンディング準備	達成	中庭改修プロジェクト開始
		医療費あと払いサービス準備	達成	稼働開始

HCU(高度治療室)の稼働開始

2022年5月9日より、8床のHCU(高度治療室)の稼働が開始しました。HCUは「High Care Unit」の頭文字から来ており、一般病床とICU(集中治療室)の間にあたる高機能病床です。

HCUの新設により、生命の危機に直面している重症患者さんのためにICUの病床を確保でき、それと同時に急に状態が悪くなる危険があったり、一般病床ではケアが難しい患者さんをより注意深く診察することができるようになりました。

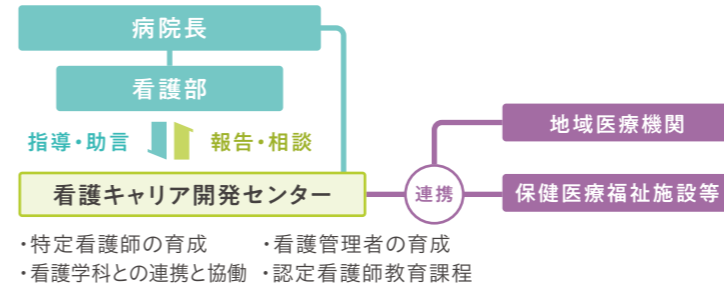
看護キャリア開発センターの取組

本学では、看護師のキャリアアップの積極的な支援を行っています。奨学金制度を創設し、研修費用の全額補助を行うほか、院外の近隣施設にも積極的な勧誘を行い、地域全体の医療の質向上に取り組んでいます。

看護キャリア開発センターは、個々の看護師のキャリア開発の一層の推進と看護の質向上を目指して2022年度に活動を開始しました。当センターの取組の1つである「特定行為研修」は在宅医療等の更なる推進やチーム医療の促進並びに医師の負担軽減等を目的に実施しており、2022年度は国立大学病院の中でトップクラスの資格取得者数を誇りました。

「特定行為研修」を受講することにより、医師の指示に基づき行う診療補助行為の一部を看護師自身の判断で行うことができるようになります。地域医療への貢献はもちろん、特定看護師を院内の様々な部門に配置することにより、医師のタスクオーバーを解消し、患者さんの急変によりタイムリーな医療介入を行えるようになることも大きな利点です。

看護キャリア開発センターの役割



2022年度新入職看護師の集合写真

浜松地区 感染対策地域連携を考える会

「浜松地区 感染対策地域連携を考える会」は、浜松地区における各病院間での地域連携の現状について情報を共有し、自施設の感染管理活動に活かすとともに、より充実した感染対策地域連携を目指すことを目的に毎年開催しており、11年目を迎えます。

2023年2月10日に附属病院多目的ホール及びWEBによるハイブリッド方式で開催し、25施設より125名が参加しました。浜松市医師会及び浜松市浜北医師会が新たに加わり、今後の更なる浜松地区の感染対策地域連携の推進が期待されます。

同会では、本学担当者より、2022年度の浜松地区感染対策サーベイランス報告を行いました。また、外来感染対策向上加算と連携強化加算に関する取組についての報告、新興感染症発生時等の想定訓練が行われ、とても有意義な会となりました。



浜松地区 感染対策サーベイランス報告の様子

「よくわかる! 浜松医科大学医学部附属病院最新医療のいま」の出版

附属病院が提供している最新医療について、分かりやすい言葉で解説した「よくわかる! 浜松医科大学医学部附属病院最新医療のいま」を出版しました。本書で医療の正しい情報をお届けするとともに、本院の最新の治療法やより良い医療提供のための取組を知っていただけるよう、様々な疾患や治療を全80テーマに厳選し、医師・看護師・メディカルスタッフが分かりやすく解説しています。

書籍の構成

- 特別企画
「五郎丸 歩 静岡ブルーレヴズCRO x 松山 幸弘 病院長」対談
- よくある疾患の最新治療
- 女性への医療
- 小児への医療
- がんとフレイル
- 高度施設と最新の技術 など



社会連携・地域連携

産学官連携・地域連携のさらなる発展



理事(教育・産学連携担当) 副学長 山本 清二

2023年度文部科学省公募事業「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に、本学が提案したプロジェクト(約12億円)が全国の国公私立大学の30件のうちのひとつとして採択されました。本学の提案は、光技術・ものづくり技術を活用した医工連携研究を推進するための新しい実証施設「ホスピタル・ラボ(手術室、診察室、病室を模したラボを持つオープンイノベーション施設)」を整備するという内容で、遠州・東三河地域を健康医療産業の一大集積地にすることを目的としています。

そのためには、静岡大学、豊橋技術科学大学等、地域の大学との学学連携、浜松ホトニクスをはじめとする地域企業との産学連携と共に、浜松市との共創を強力に推進する必要があります。本学はこれまで、浜松市が起業家応援都市「浜松バレー」構想の一環として運営する「スタートアップ戦略推進協議会」や、デジタル・スマートシティ構想を実現するための「デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム運営委員会」を構成するメンバーとして積極的に地域連携に参画してきました。特に医療・医学、医工連携の領域においては、ウェルネス社会の実現に向けた予防・健康都市「浜松」の構想を打ち出し地域の活性化を進める「浜松ウェルネスプロジェクト」で、中心的役割を果たしてきました。ホスピタル・ラボの整備により、国内外の社会課題解決やスタートアップを含めた新産業の創出などのイノベーションに結び付け、大学の機能強化を図ることが求められています。それに答えるためにも産学官連携・地域連携をさらに発展させる必要があり、新しい共同研究を「プロデュースする」部門として、2024年度からの活動を目標としている「産学官連携実施法人(外部法人化した産学官連携部門)」を設立し機能させなければならないと考えています。

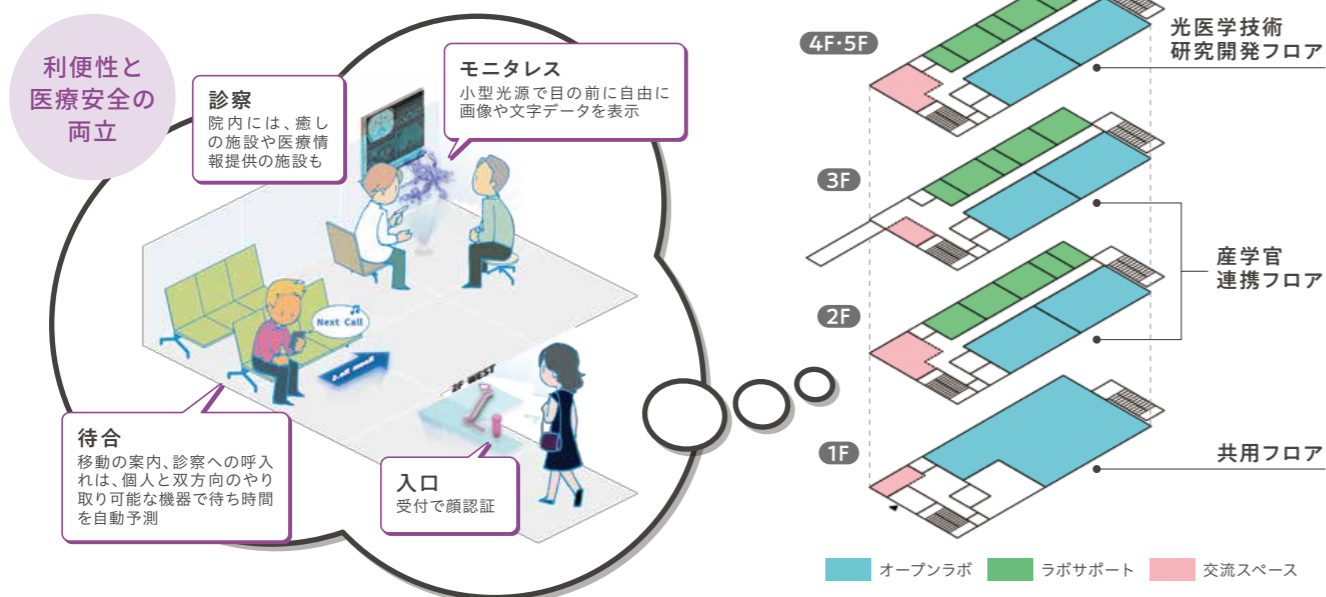
- 将来ビジョン
- 産学官金連携推進体制の強化による革新的な技術の創出とベンチャー企業の育成
 - 地方創生・価値創造の中核として、地域や他大学と連携したインクルーシブで持続可能な「ウェルネス社会」の共創

主なロードマップ	～2021年度	2022年度	2023年度	2024年度～
産学官連携の推進	産学官連携実施法人設置準備室の設置、有識者会議の立ち上げ	産学官連携部門の外部法人化を検討	外部法人の設置・活動開始 ホスピタル・ラボの設置・活動開始	外部法人の設置・活動開始

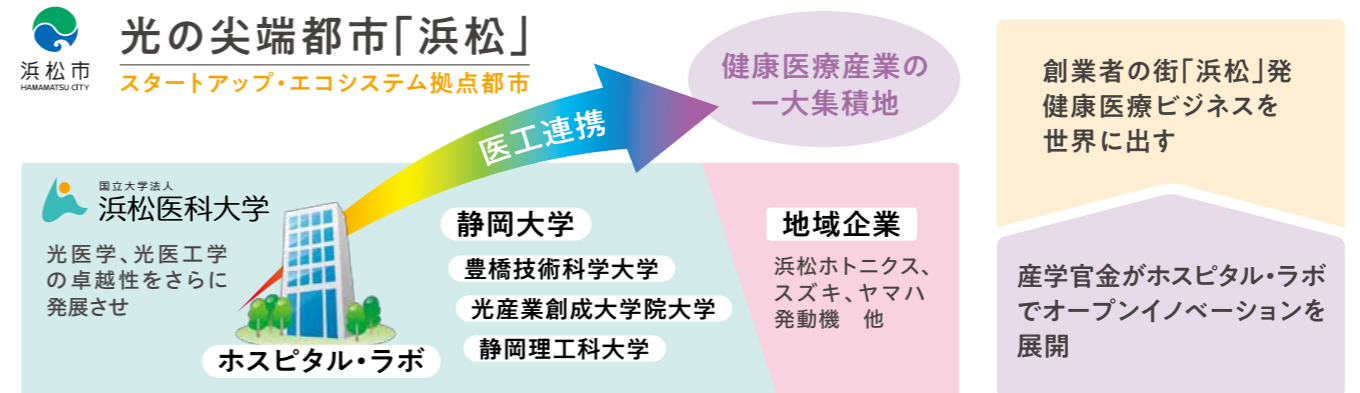
■ 地域中核・特色ある研究の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業

「ホスピタル・ラボ」は、新規医療技術の実証、新技術のテストフィールド、近未来の病院DX化等に向け開発研究を行う実験室として実用化・事業化を推進する施設です。手術室、病室等を想定したラボと光学技術の開発を行うラボが集うオープンラボエリア、ラボをサポートするオフィス機能を有するラボサポートエリア及びカウンターキッチンを設置した産学官が交流する交流スペースを整備予定です。

「ホスピタル・ラボ」が推進する近未来の病院像



■ 地域との共創 産学官金連携で目指すもの



■ 情報交換会、セミナー、フォーラム等の開催

本学が中心となって運営する「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点(はままつ医工連携拠点)」は、浜松商工会議所 浜松医工連携研究会(100社)と連携し、医療・介護現場との情報交換会や現場見学会を開催しています。医療従事者にしか分からない課題が新たな商品開発のヒントとなることから、医療現場の現状や課題について情報交換し交流する場を設けることで、地域企業に商品開発のニーズを提示しています。また、はままつ医工連携拠点では、ものづくり技術を活かして医療機器業界に参入できるよう、はままつメディカル塾(医療機器分野参入セミナー、薬機法セミナー)の開催、浜松・東三河地域を中心とした医療分野の製品・技術開発の推進を目的とした「メディカルイノベーションフォーラム」を開催するなど、地域の医療における産業界との連携に力を入れています。



情報交換会(上)、フォーラム(下)の様子

■ 地域の教育・人材育成への貢献

本学では、顕微鏡、カメラなどのイメージング機器の基礎から応用に関する知識や技術を習得する場を提供し、イメージング研究の発展に寄与することを目的とし、1992年以来、毎年、教育機関・企業等の学外の研究者の方に向けて浜松医科大学メディカルフォトニクス・コース(MPC)を開講しています。コロナ禍前(第28回以前)は、対面による座学や実習を5日間行っておりましたが、対面での開催が難しくなっていた近年では、開催期間中に様々なイメージング機器に関する動画を視聴するオンライン動画講習会として開講しています。

今後もイメージング研究に関する様々な情報を発信することで、地域社会の発展、人材育成に貢献していきたいと思っております。



メディカルフォトニクス・コースの様子

■ 実用化された開発技術

本学では、大学発ベンチャー企業を含めた民間企業等との共同研究によって生まれた研究シーズを実用化・製品化することにも力を注いでいます。

事例:皮膚貼付型小型組織オキシメーター

外科学第二講座海野特定教授と「株アステム」との共同研究で実用化されました。臓器や皮膚組織の酸素飽和度は、いわゆる「活きの良さ」を示す指標です。この装置によって血管外科や形成外科などの手術中に対象組織の酸素飽和度をリアルタイムに測定することが可能で、手術時間の短縮、合併症の減少、医療資源の有効活用につながる事が期待されています。



皮膚貼付型小型組織オキシメーター

業務運営

持続的な成長を目指した業務運営のために



理事(企画・評価担当)・副学長
渡邊 裕司

業務運営では、大学の各企画室からInstitutional Research(IR)室に集められたデータに基づいて自己点検・評価を行い、その結果を可視化するとともに情報共有し、外部の意見を取り入れたエビデンスに基づく効果的な法人経営を目指しています。本学の経営方針や今後の計画、現時点での進捗状況、自己点検・評価の結果、さらに教育研究の成果や社会貢献のあり方などを、本統合報告書をはじめ様々な媒体を通じて、積極的に情報発信していきます。

2023年度は第4期(2022-2027年度)中期計画の2年目に当たりますが、社会的な要因により高騰するエネルギー関連経費などの影響を最小化し、教育・研究・診療活動を高いレベルで持続するため、財務運営にあたっては公的資金の他、寄附金やクラウドファンディング、産業界からの資金等の受入れを進め財源の多元化を図り、安定的な基盤形成に努めています。

国内の大学の「教育力」を独自の指標で順位づけした「THE日本大学ランキング2023※」では「教育リソース」分野で全国4位となりました。本学の重要なミッションの一つである地域・社会貢献活動では一般市民や本学学生も参加したヒアリング審査を実施し、採択された17事業が実践されています。労務管理に関しては、働きやすい環境の整備を進め、ダイバーシティを考慮した人事計画に基づき女性教員比率や若手教員比率の向上に努め、今後もタスクシフトを含め職員の働き方改革を実践していきます。

また静岡大学とは大学・学部・教職員・学生の多様なレベルでの交流を深め、早期の法人統合・大学再編の実現を目指します。2024年に浜松医科大学は開学50周年を迎えます。デジタルキャンパスの推進など将来ビジョンを達成し、さらなる飛躍を目指し今後も活動してまいります。

※英国の教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション:THE」。教育リソースの分野は、学生への教育の「資源(リソース)」とされる指標で構成される。具体的には(1)学生一人あたりに換算した大学の収入や(2)学生一人あたりの教員数(3)教員一人あたりの論文数(4)入試合格者の学力(5)教員一人あたりの研究資金(競争的資金獲得数)を点数化して順位付けしている。

将来ビジョン

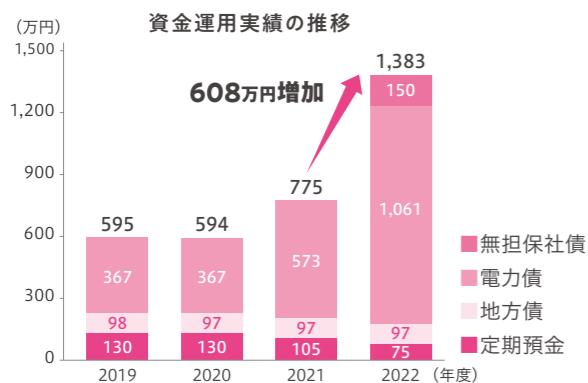
- 外部有識者やその他ステークホルダーとの対話とエビデンスに基づく戦略的経営
- 財源の多元化や資産運用等の拡大による安定的な財務運営
- イノベーション・commonsの実現、病院機能の強化とデジタル・キャンパスの推進

主なロードマップ	～2021年度	2022年度	2023年度	2024年度～
外部有識者やステークホルダーとの対話	浜松地区大学再編・地域未来創造会議への参加	統合報告書の発行	開学50周年記念事業の検討	式典開催
財源の多元化と資産運用等の拡大		投資信託等による運用の検討		
施設整備・デジタルキャンパスの推進		講義実習棟の改修	ホスピタル・ラボの設置・活動開始 神経機能解析施設の設置・活動開始	利用開始

資金運用拡大の取組

業務上の余裕金の運用にかかる文部科学大臣の認定を受けたことにより、安定した中長期的な運用を見据え、収益性の高い金融商品での運用を始めています。

資金運用管理委員会において、金融資産のリスク・リターンの詳細を見極め、外部委員を含めた審議体制にて積極的に投資したことで運用実績が向上しています。



クラウドファンディングの実施

2023年3月6日から4月28日にかけて、本学として初めてのクラウドファンディング※に挑戦しました。

松山病院長が実施責任者となり、病院中庭の再整備やプロジェクトマッピングを行うため、「誰もが癒される病院に「中庭の再整備とプロジェクトマッピングを！」というテーマで目標金額1,500万円に設定し、最終的に330名の寄附者から、計1,800万円を超えるご寄附をいただき無事目標を達成することができました。

今回のプロジェクト達成を受けて、中庭の再整備とプロジェクトマッピング実施の準備を進めております。

※クラウドファンディング: インターネットを介して、実施者の計画したプロジェクトに賛同した方から広く資金を募る仕組み



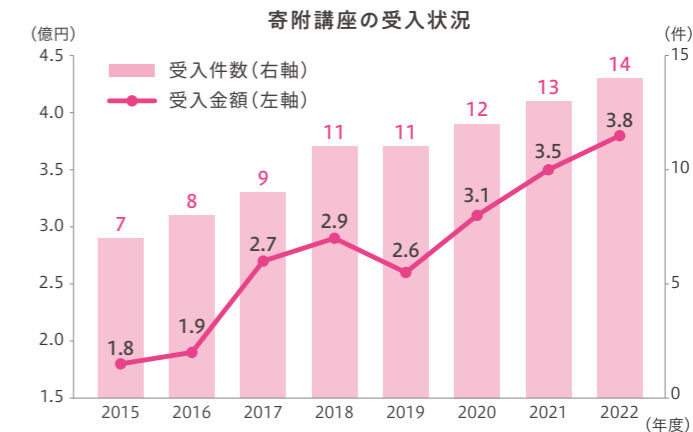
寄附講座の受入れ

企業、自治体等からの寄附金により、本学における教育研究の豊富化、活性化を図ることを目的として、寄附講座を設置し、運営しています。

2023年度には新たに森町から寄附を受け入れ、「森町地域包括ケア講座」を新設しました。「森町地域包括ケア講座」の設置目的は森町の地域医療の確保と地域医療体制の構築に関する教育・研究を行うこと、また、町民が不安なく暮らせるよう、医療・介護・福祉のサービスが連携した地域包括ケアシステム※の構築に関する研究を行うことです。

本制度の活用により、本学と企業、自治体等との幅広い連携や、教育研究の一層の進展、活性化が期待できます。

※地域包括ケアシステム: 高齢になっても住み慣れた地域で、自分らしい生活ができるよう地域、医療、介護、福祉が連携して、生活を支援する仕組みのこと



本学教職員等による社会貢献活動の支援

本学は、社会貢献活動を推進するため、教職員等による社会貢献活動に対して、一般市民の方や本学学生にもご参加いただいた上でヒアリング審査を実施し、活動資金の支援を行っています。

2022年度は以下の活動に対して、支援を行いました。



地域教育に対する活動

- ・視覚障害理解の学習
- ・夏休み学童保育事業「アカデミックサマースクール」
- ・いのちの授業
- ・中高校生の為の出張肝臓病教室
- ・親子で楽しむわくわく工作教室 「災害時に役立つ電池のいらないMYラジオを作ろう！」
- ・学ぼう! #脳のしくみ・やってみよう! #新しいアイデアのひらめき
- ・みんなで学ぼう! 感染対策2022
- ・中学生・高校生に向けたプライマリ・ケア医についての理解を深めるオンライン交流会～プライマリ・ケア医を知っていますか?～
- ・2022年度 トレーナーによるスポーツ医学講習会

地域医療や公衆衛生に貢献する社会活動

- ・静岡県内多胎児家庭支援(しずおか多胎ネット活動支援)
- ・小児・AYA世代がん経験者とその家族に対するオンラインピアサポートの提供
- ・看護部 専門・認定看護師連絡会 出張健康教室
- ・静岡県西部DMATブラッシュアップ研修
- ・静岡災害リハビリテーション研修会
- ・外来化学療法への質向上のための地域薬局との連携体制の整備
- ・はままつ遺伝ケアネットワーク勉強会
- ・行政・産業界等の公衆衛生関係者の連携強化支援とコンサルテーション

静岡大学・浜松医科大学 第2回医・工・情報の異分野連携シンポジウムの開催

2023年3月21日に静岡大学と本学の共催で「静岡大学・浜松医科大学 第2回医・工・情報の異分野連携シンポジウム」を開催しました。2022年12月に開催した第1回は、主として両大学関係者を対象として実施しましたが、今回は第1回の内容を踏まえて、県内の地方自治体や経済界、教育界、中高生など県民に広く浜松地区新大学を紹介する目的で実施し、会場とオンライン合わせて約110名の参加がありました。

シンポジウムでは、静岡大学喜多工学部長から少子化や大学進学者の県外流出の状況を踏まえ、浜松地区新大学設置の意義や重要性について説明があり、本学山本理事からはこれまでの浜松キャンパスとの緊密な連携や取組を踏まえた新大学設立の必然性、さらに両大学が合意に至った新法人設立・大学再編の理念等について説明をしました。続いて、静岡大学笹原情報学部長から浜松地区新大学の将来構想について説明があり、その後、「浜松地区新大学の未来について語る」と題したパネルディスカッションを実施しました。最後に、静岡大学川田理事から法人統合・大学再編構想の実現を目指すとの挨拶をいただき閉会となりました。

シンポジウムは浜松医科大学オンデマンドにて公開しておりますので、是非ご視聴ください。



web

浜松医科大学オンデマンド
<https://od.hama-med.ac.jp/video/59/230>



将来ビジョン達成に向けた取組


2022年度から2023年度の主な施設整備(整備中を含む。)

教育・研究・医療・産学官金連携に係る環境の充実や来学される方々の利便性向上のため、様々な施設・設備を整備しています。

① 多目的ホール

建築面積 / 延床面積	451m ² / 572m ²
構造 / 階数	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 / 地上2階
工期	2021.10~2022.12

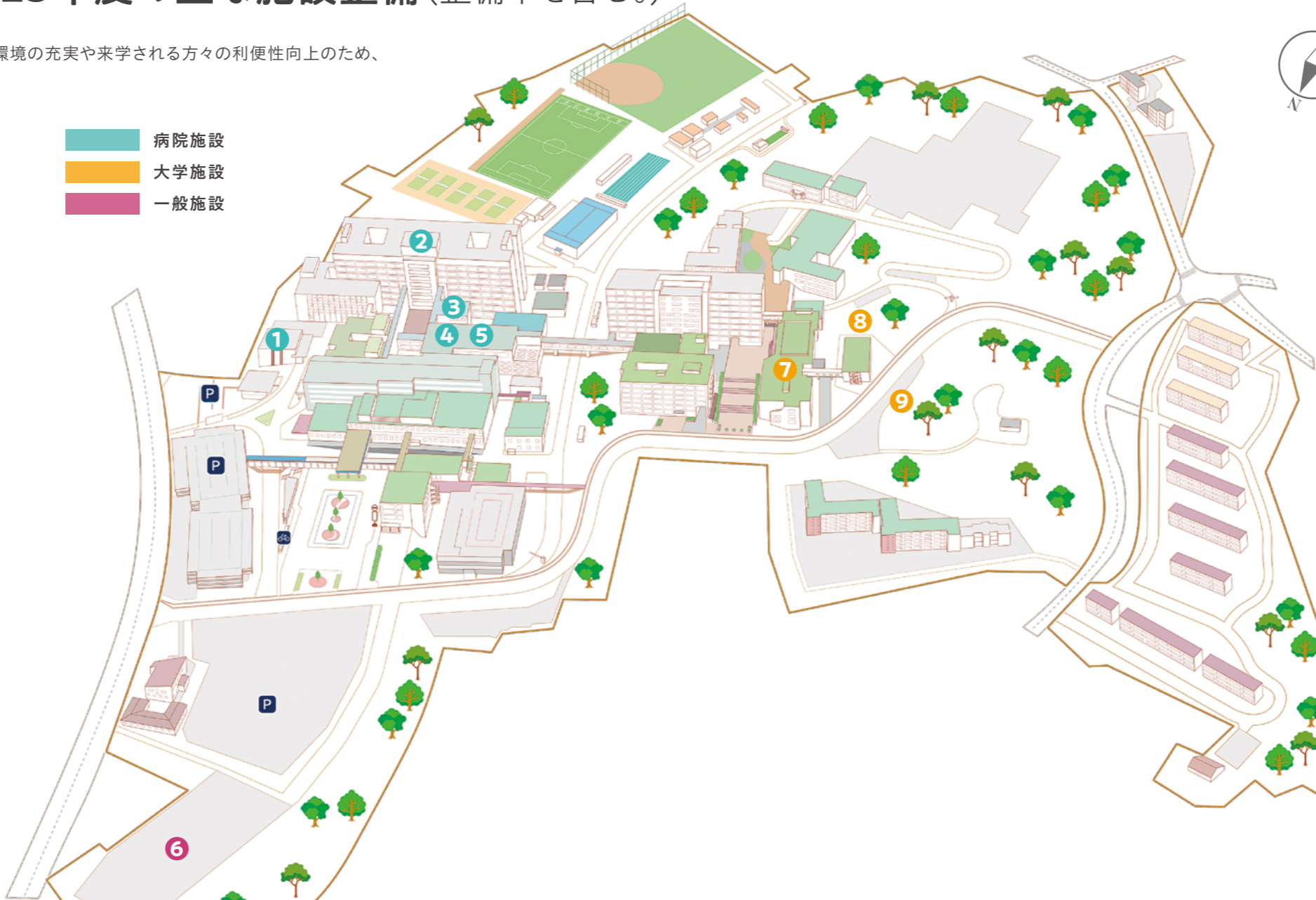
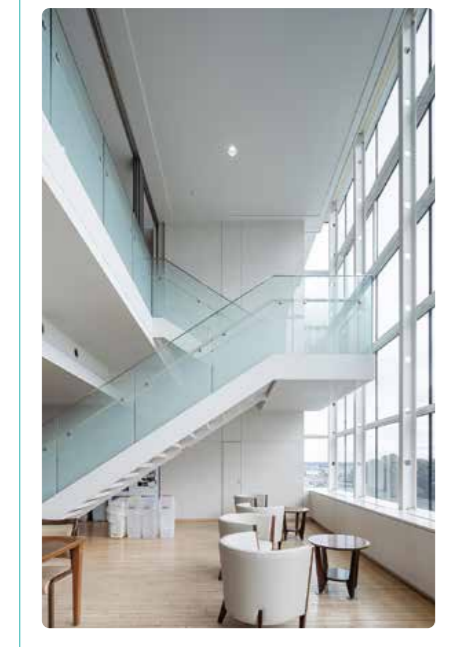
収納・展開できる階段状の客席(98席)を備えているので様々な目的に使用することができます。また、大規模災害時に救急措置や救護するための医療ガス配管や非常電源回路を備えています。



② 病棟デイルーム天井耐震化

改修対象	デイルームの天井
工期	2022.9~2022.12

病棟は大規模な震災が発生した時も大きく揺れない構造となっていますが、さらなる安全性を確保するため、デイルームの天井落下防止対策をしました。



③ 超音波検査センター整備

改修対象	内装、塗装、建具、電気設備、空調・換気設備等
工期	2022.10~2023.1

エコー検査の件数増加や利便性向上を図るため、先端医療センターへ移転した外来化学療法センターの跡地である中央診療棟3階の一部を改修し、超音波検査センターを整備しました。



④ 神経・難病センター整備

改修対象	内装、塗装、建具、電気設備、空調・換気設備等
工期	2022.6~2023.2

神経難病等の難病患者の治療や難病医療に関する教育・研究を推進するため、先端医療センターへ移転した光学医療診療部の跡地である外来棟3階の一部を改修し、神経・難病センターを整備しました。



⑤ 病理解剖室感染対策

改修対象	空調・換気設備、内装
工期	2022.10~2023.3

外来棟地下にある病理解剖関連諸室の環境改善や安全な作業環境の維持を図るため、設備を更新して適切な空調・換気的能力を確保しました。



⑥ 半田山宿舎跡地職員用平面駐車場整備

工期	2021.11~2022.5
----	----------------

老朽化した職員宿舎を取り壊し、PPP事業※1(BOT方式※2)により職員用平面駐車場(176台分)を整備しました。



⑦ 講義実習棟改修

建築面積 / 延床面積	2,308m ² / 7,061m ²
構造 / 階数	鉄筋コンクリート造 / 地上3階 地下1階
工期	2021.6~2022.3(I期) 2022.4~2023.3(II期) 2023.4~2024.3(III期)【予定】

医療人材を育成する拠点として、老朽化した建物の再生と未来を見据えた教育環境を整えるため、多機能かつフレキシブルな学修環境及びICT環境に対応できる施設として整備しています。



⑧ ホスピタル・ラボ

延床面積	2,503m ²
構造 / 階数	鉄骨造 / 地上5階
工期	2023.12~2024.3【予定】

地域産学官連携科学技術振興拠点施設整備費補助金(地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業)により、主に新規医療技術の実証、近未来の病院DX化等に向け開発研究を行う実験室として実用化事業化を推進する施設を整備します。

⑨ 神経機能分子解析施設

延床面積	726m ²
構造 / 階数	鉄骨造 / 地上2階
工期	2023.12~2024.3【予定】

地域産学官連携科学技術振興拠点施設整備費補助金(地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業)により、藤田医科大学の連携大学として、脳神経病態研究の研究推進と広範囲な共同研究の活性化を促し、創薬等の社会実装を促進する施設を整備します。

※1 PPP事業:官民連携事業 ※2 BOT方式:民間が施設を建設・維持・管理・運営し、契約期間終了後に公共へ所有権を移転する方式

将来ビジョン達成に向けた取組

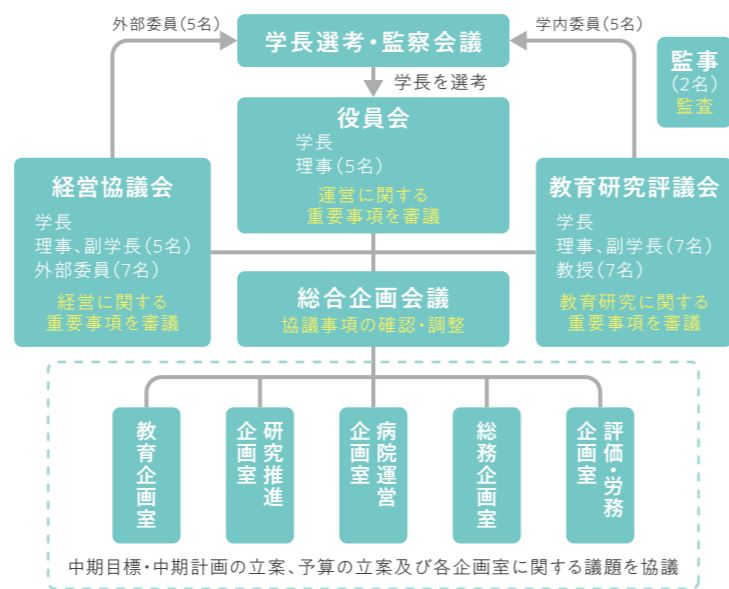
内部統制の整備に関する情報等

● 運営組織図

本学では、各分野の専門的事項等を協議するため5つの企画室を置き、室長には、その分野を所掌する理事、副学長を充てています。この企画室では、中期目標・中期計画の立案及び予算の立案について一体的に協議を行うことにより、目標達成に向け効率的な体制を構築しています。

さらに、学長や各企画室長等で構成される総合企画会議では、各企画室において協議された事項について、改めて確認・調整を行った上で、中期目標・中期計画や予算等の重要な事項については、国立大学法人法で設置が定められている教育研究評議会、経営協議会及び役員会において審議しています。

また、国立大学法人法に基づき本学の業務を監査するため監事を置いています。

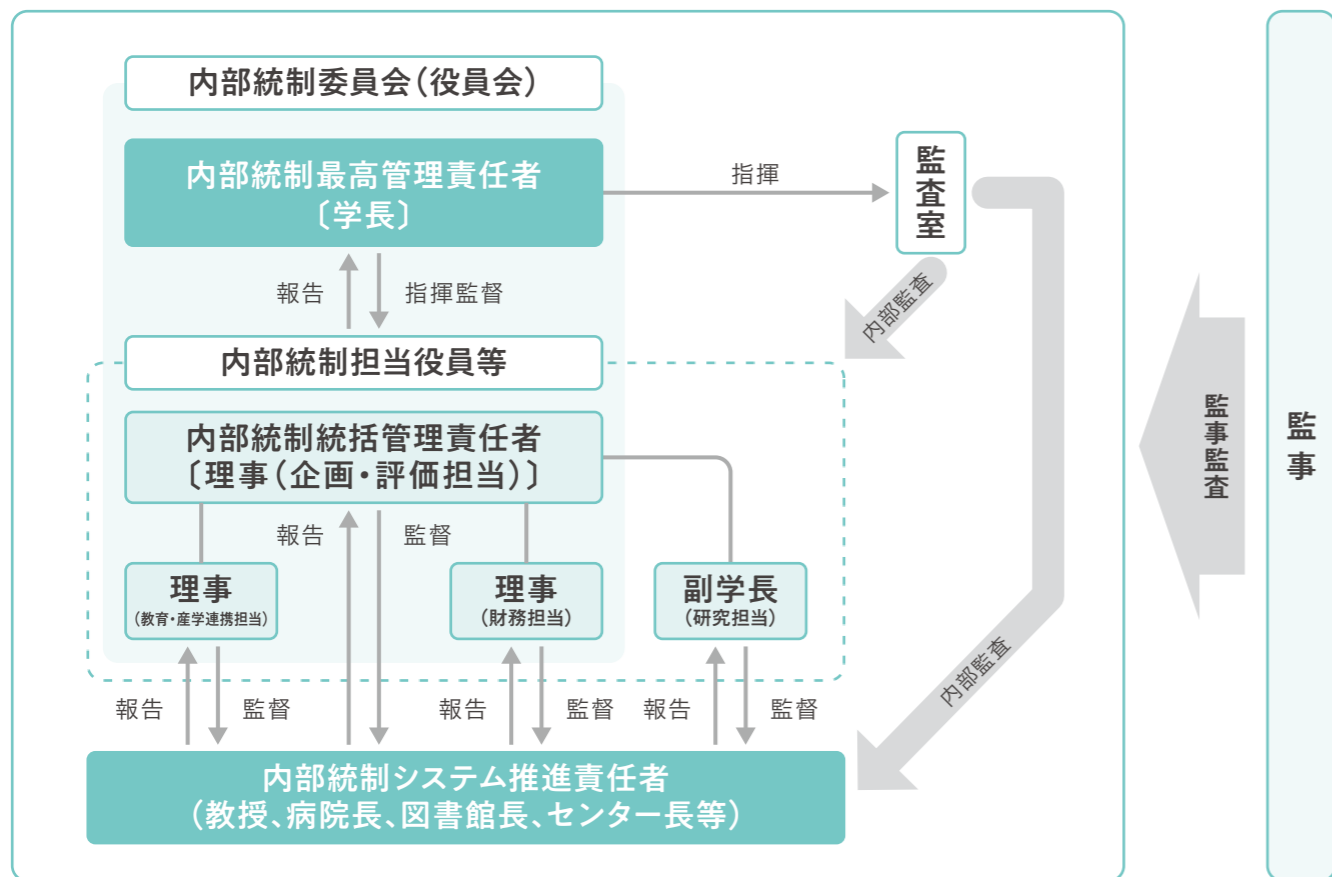


● 内部統制

2023年3月に内部統制システムの見直しを行い、理事(企画・評価担当)をとりまとめ役の内部統制統括管理責任者とした上で、内部統制担当役員等に、理事(教育・産学連携担当)、理事(財務担当)及び副学長(研究担当)を新たに充てる体制に改め、内部統制の整理・強化を図りました。

今後も業務の有効性・効率性の向上を図りつつ、コンプライアンスを推進し、関係者の皆様の期待に応えられるよう努めます。

内部統制に係る組織図(イメージ)



● 国立大学法人ガバナンス・コードへの対応

国立大学法人ガバナンス・コードは、国立大学法人に高い公共性が求められ、各種の財政支援等が行われていることから、強固なガバナンス体制を築くとともにそのことを多様な関係者に対して明らかにするため、政府の「統合イノベーション戦略(2018年6月15日閣議決定)」を踏まえ、2020年3月に国立大学協会が文部科学省、内閣府の協力を得て策定しました。

ガバナンス・コードの実施を通じて教育・研究・社会貢献機能を高めるとともに、経営の透明性を高めて、社会への説明責任を果たすため、毎年度、その適合状況に関する報告書を公表しています。

なお、ガバナンス・コードは70の基本原則、原則、補充原則から構成されており、本学は全ての原則に対応していることを確認しております。

web 国立大学法人ガバナンス・コードへの対応状況は、ホームページで公表しています。
<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/disclosure-info/governancecode.html>

● 研究費の不正使用防止及び研究活動の不正行為防止への対応

本学では、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン(2014年8月26日 文部科学大臣決定)」及び「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)(2007年2月15日 文部科学大臣決定 2021年2月1日改正)」に基づき、以下の責任体制の下、研究費の不正使用防止及び研究活動の不正行為防止に向けて取り組んでいます。

責任体系		
研究費の運営・管理		研究活動の不正行為防止
研究費不正防止最高管理責任者	学 長	● 法人統括
研究費不正防止統括管理責任者	理事(財務担当)	● 学長補佐 ● 研究費不正防止統括
コンプライアンス推進責任者	事務局次長(総務・教育担当)	● 不正防止対策の実施 ● コンプライアンス教育の実施・管理
各講座等の主任教員		● 所属職員への周知徹底 ● 法令及び関連規則遵守 ● 研究費適正使用の遵守
研究公正最高責任者	学 長	● 法人統括
研究公正統括責任者	副学長(研究担当)	● 学長補佐 ● 不正行為防止事務統括
倫理教育統括責任者		● 学長補佐 ● 研究者倫理向上事務統括
研究公正・倫理教育責任者	各講座等の主任教員	● 所属職員への周知徹底 ● 法令及び関連規則遵守 ● 研究者倫理の向上

関係組織等	窓 口
研究費不正防止計画推進委員会 ・不正防止計画の策定・実施 ・実施状況及び監査結果の確認と必要に応じた是正対応	監査室 ・告発窓口 研究協力課 ・事務処理手続等に係る相談窓口
研究活動公正推進委員会 ・研究倫理の向上を図るための教育、研修及び啓発 ・不正行為への対処並びに研究の公正な推進	

- 主な取組
- スタートアップミーティングの実施(関係各部署の事務局職員が国等からの受託研究費を獲得した各講座等担当者(教員・事務補佐員)に対して個別に執行ルールや事務手続等の注意事項などを説明し、連携・情報共有・意識統一を図ります。)
 - 定期的な不正防止に関する講習会の実施
 - e-learningによる研究倫理教育の実施

web 研究費の不正使用防止等に関する基本方針や規則等は、ホームページで公表しています。
<https://www.hama-med.ac.jp/research/fraudulent/index.html>

内部統制の整備に関する情報等

国立大学法人の会計制度

本学を支えてくださる多くの皆様に、本学の財務情報の概要をご理解いただくため、国立大学法人特有の会計制度について、簡潔にご説明いたします。

1 国立大学法人会計と官庁会計、企業会計との違い

国立大学法人の会計制度は、企業会計原則を基本としていますが、国立大学という公共的な性格や特殊性を踏まえて、企業会計とは異なる独特な会計制度(国立大学法人会計基準)が採用されています。

区分	目的	利害関係者	利益の獲得
国立大学法人会計	財政状態・運営状況の開示	国民その他の利害関係者	目的としない
官庁会計	予算とその執行状況の開示	国民、住民	目的としない
企業会計	財政状態・経営状態の開示	株主、投資家、債権者等	目的とする

- 主たる業務は「教育・研究」等のサービス提供であり、利益の獲得が主目的ではありません。例外的に附属病院における診療等については、利益の獲得はある程度考慮され企業会計と同様な処理となります。
- 独立採算を前提とせず、国からの財政支援(運営費交付金等)があります。

2 国立大学法人会計の財源(収入源)

国立大学法人は、国からの運営費交付金、学生からの納付金(授業料、入学料、検定料)、附属病院収入、企業からの寄附金、受託研究費等を財源(収入源)として運営されています。それぞれの財源(収入源)はそれぞれの性質に応じて会計処理がなされます。



3 国立大学法人の利益

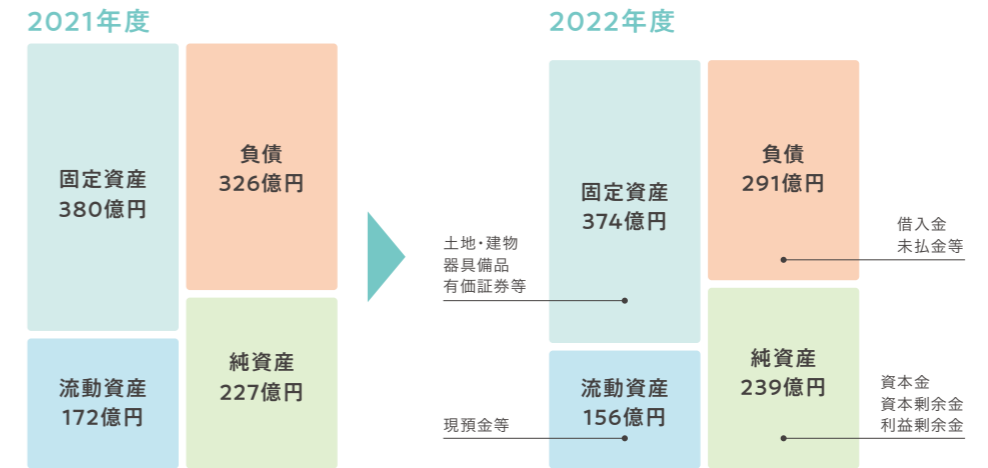
国立大学法人の利益には、「運営努力で発生した利益」と「現金を伴わない利益」の2つがあります。「運営努力で発生した利益」とは、計画された業務を効率よく実施したことによる費用の削減や、積極的な自己収入増加を図ったことにより発生した利益のことです。この利益のうち、大学の運営努力によるものとして文部科学大臣の繰越承認を受けた利益は、「目的積立金」として、次年度以降の中期計画で定めた用途に従い、「教育研究診療の質の向上及び組織運営等の改善」のために使用することができます。



財務諸表等の概要

● 貸借対照表

事業年度決算日3月31日における資産、負債、純資産を表し、財政状態を明らかにしています。土地、建物や器具備品等の資産、借入金等の負債及び国からの出資等の純資産を元に教育、研究、診療の業務活動を行っています。

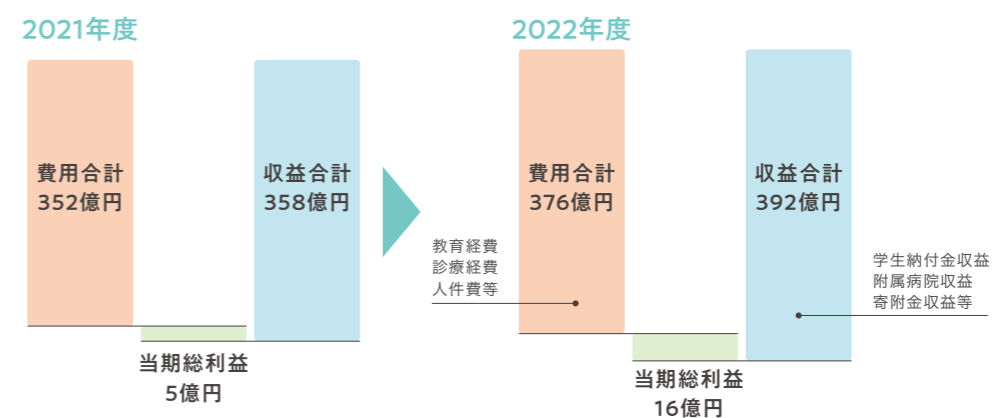


主な増減要因

- 固定資産(前年度比6億円減)
先端医療センター関連工事、多目的ホール整備、講義実習棟改修(II期)による増加と相対し、前年度より建物工事が減少及び減価償却費が増加
- 流動資産(前年度比16億円減)
● 負債(前年度比35億円減)
工事代未払金が前年度より少額等

● 損益計算書

年度内に実施した事業により発生した費用、収益を表し、一年間の運営状況を明らかにするものです。教育、研究、診療の業務・目的別に費用を示し、運営費交付金や附属病院等の財源別に収益を示します。



主な増減要因

- 費用(前年度比24億円増)
手術件数等の増加に伴う材料費増加及び高額薬剤の使用増加
- 収益(前年度比34億円増)
外来患者数増加及び診療単価の向上による附属病院収益の増加

● 純資産変動計算書

純資産とは、資産から負債を控除した額に相当するもので、国立大学法人の会計上の財産的基礎及び業務に関連し発生した剰余金等から構成されています。上記貸借対照表の純資産です。

この計算書は、2022年度より新たに財務諸表の一つとして追加され、財政状態と運営状況との関係を表すため、事業年度内の全ての純資産の変動を記載しています。

※各金額は単位未満を切り捨てているため、計が一致しない場合があります。

財務諸表等の概要

● キャッシュ・フロー計算書

事業年度の資金の流れを「業務活動」・「投資活動」・「財務活動」の3つの区分に分けて表示しています。

[業務活動によるキャッシュ・フロー]

国立大学法人等の通常の業務の実施に係る資金の状態を表します。資金を獲得した場合はプラス、流出した場合はマイナスになります。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

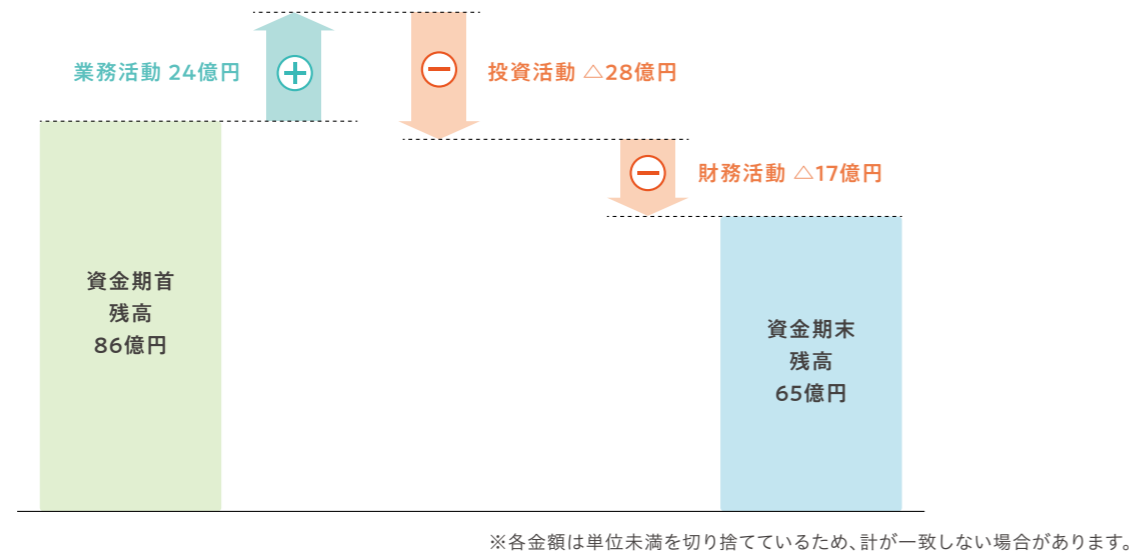
将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態を表します。資産等売却の場合はプラス、資産等への投資の場合はマイナスになります。

例：固定資産の取得による支出、施設費による収入など。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

資金の調達及び返済に係る資金の状態を表します。資金を調達した場合はプラス、債務等を返済した場合はマイナスとなります。

例：大学改革支援・学位授与機構からの長期借入金の返済による支出、長期借入による収入など。



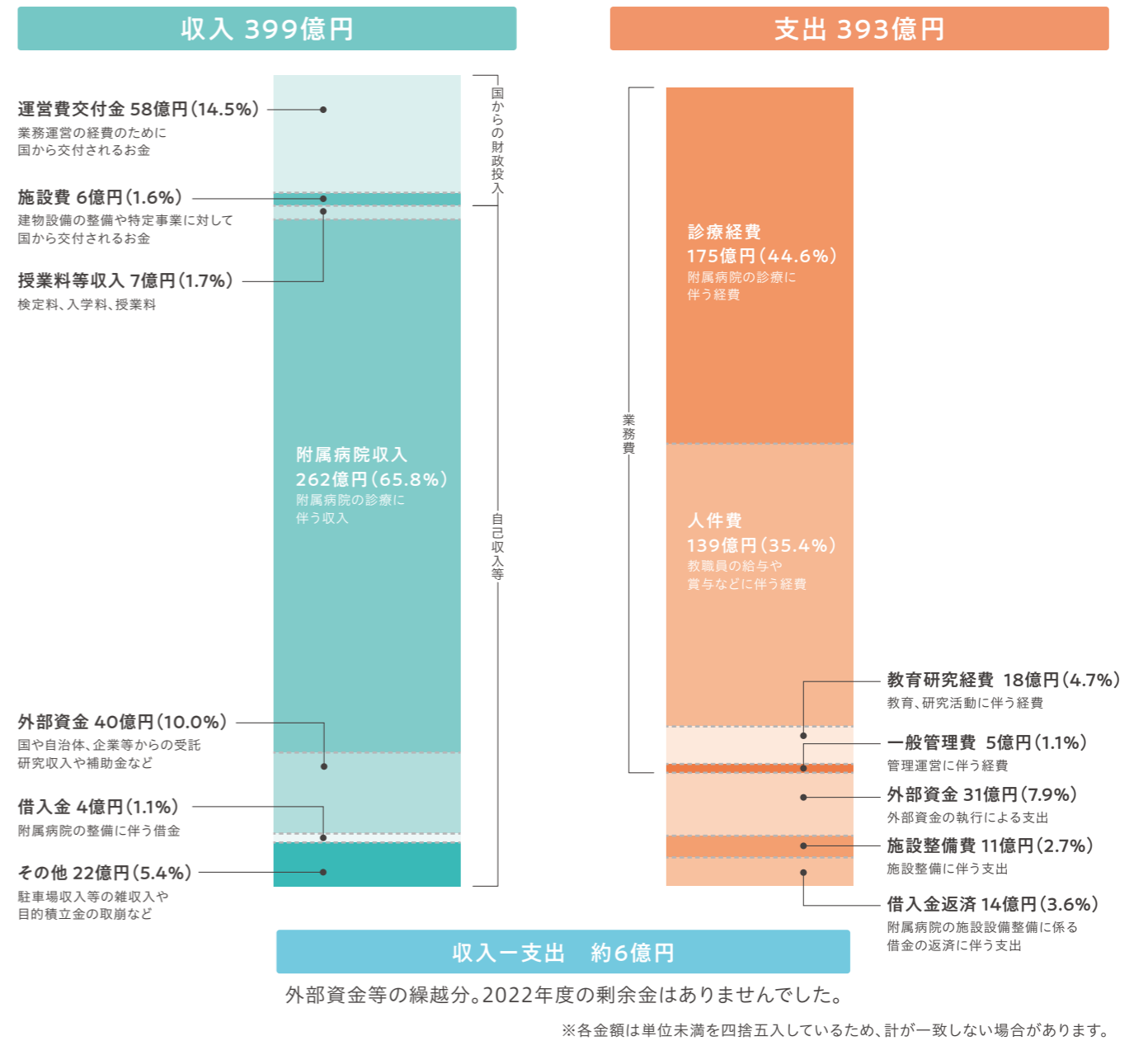
<参考>キャッシュ・フロー計算書のパターンと判定

今回、「業務活動」については+、「投資活動」・「財務活動」については-となっているため、パターン④に該当します。国立大学法人で通常想定されるパターンであり、健全な事業活動を行っています。

	業務	投資	財務	財務状況	備考
①	+	+	+	不必要な資金調達を行っており、資金に無駄がある。	
②	+	+	-	本業で資金を獲得し、借入金返済に充当する一方で、設備投資を抑制している。	
③	+	-	+	本業で資金を獲得し、さらに借入による設備投資も行っている。	
④	+	-	-	本業で資金を獲得し、設備投資や借入金返済に充当している。 本学はこれに該当しています。	国立大学法人で通常想定されるパターン。
⑤	-	+	+	本業で資金が不足しているため、借入により賄い、投資も抑制している。	
⑥	-	+	-	本業で資金が不足しているため、投資を抑制し、借入金返済を行っている。	一般的に、附属病院等で赤字が出ている等、資金不足となっている状況。
⑦	-	-	+	本業で資金が不足しているため、借入により設備投資を行っている。	
⑧	-	-	-	本業で資金が不足しているが、設備投資を行い、借入金返済も行っている。	

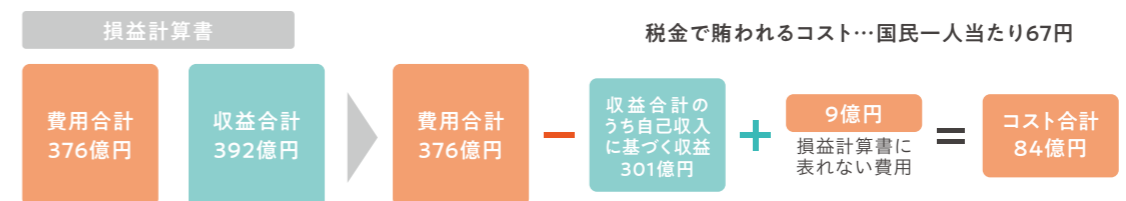
● 決算報告書

決算報告書とは、国における会計認識基準に準じ、現金主義を基礎としつつ一部発生主義を取り入れて国立大学法人等の運営状況を収入・支出ベースで報告するものです。収入については、附属病院収入等の自己収入が運営資金の大半を占めています。また、支出については、業務費のほとんどを診療経費と人件費で占めています。



● 国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト

教育・研究・診療等の業務運営に関して、どれだけの費用(コスト)が国民の税金で賄われているか注記して表しています。業務に対する評価及び判断に資するものです。

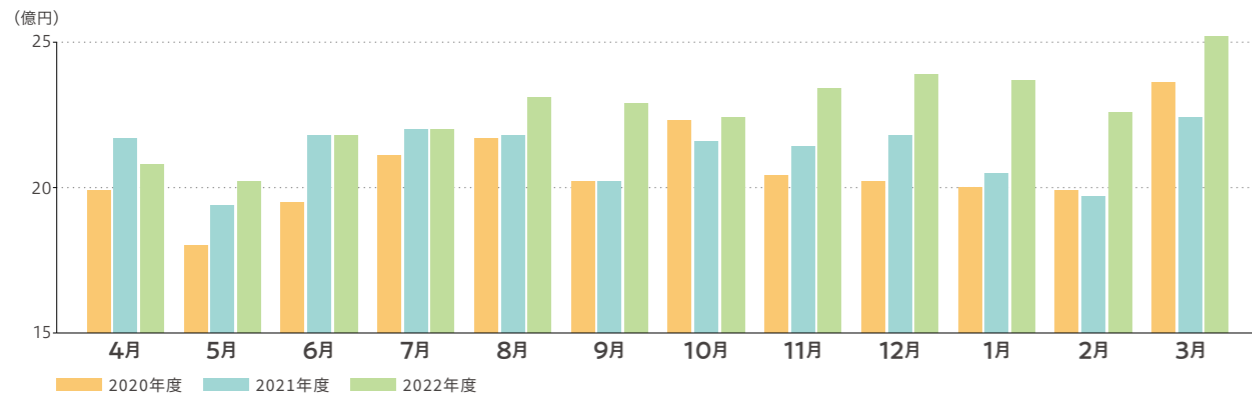


医学部附属病院の財務状況

附属病院の財務状況について、診療経費が前年度と比較し、主に医薬品費が12.7%（約8.6億円）増、水道光熱費が95.6%（約2.2億円）増の状況であり、新設部署整備を優先し備品費は前年度比44.1%に抑えたものの診療に必要な経費全体で前年度比13.6%増となっています。対して、附属病院収入は新型コロナウイルス感染症対応に加え、病棟改修により10月まで稼働は抑えられた状況でしたが、後半に手術件数及び患者数とも順調に推移し3.1%（約7.8億円）増となっております。

先端医療センターの竣工によって手術室、外来化学療法センター、光学医療診療部が拡大し通常稼働したことにより手術件数は前年度比693件増の8,231件となる等、化学療法件数、内視鏡検査数の増加と共に安定した収入を見込むことができ、電気料等の高騰は少なからず影響していますが、経費削減を恒常的に意識し調達方法の見直し等を継続し、安定的な経営状況に向けて努めてまいります。

附属病院収益の状況比較



附属病院の取組

地域の中核的な医育・医療機関として浜松市、近隣医療機関や介護施設等と相互に緊密な連携を図りながら機能分化を加速させ、効率的な地域の医療体制の構築を目指すほか、2022年1月に稼働開始した先端医療センターを効果的に運用するとともに診療体制、医療機器等の整備を拡充し、高度医療・低侵襲医療を推進するため、様々な取組を実施しています。



2022年度は、手術件数増加への対応及び集中管理が必要な患者の受入れ体制強化を図るためHCU(高度治療室)を整備し、病棟を臓器別に再編しました。また、多科・多職種との連携による痛みセンター、リンパ浮腫センター、炎症性腸疾患センターの設置や、MFICU(母体胎児集中治療室)の整備を行い、それぞれに必要な設備、医療機器及び周辺環境を整えています。

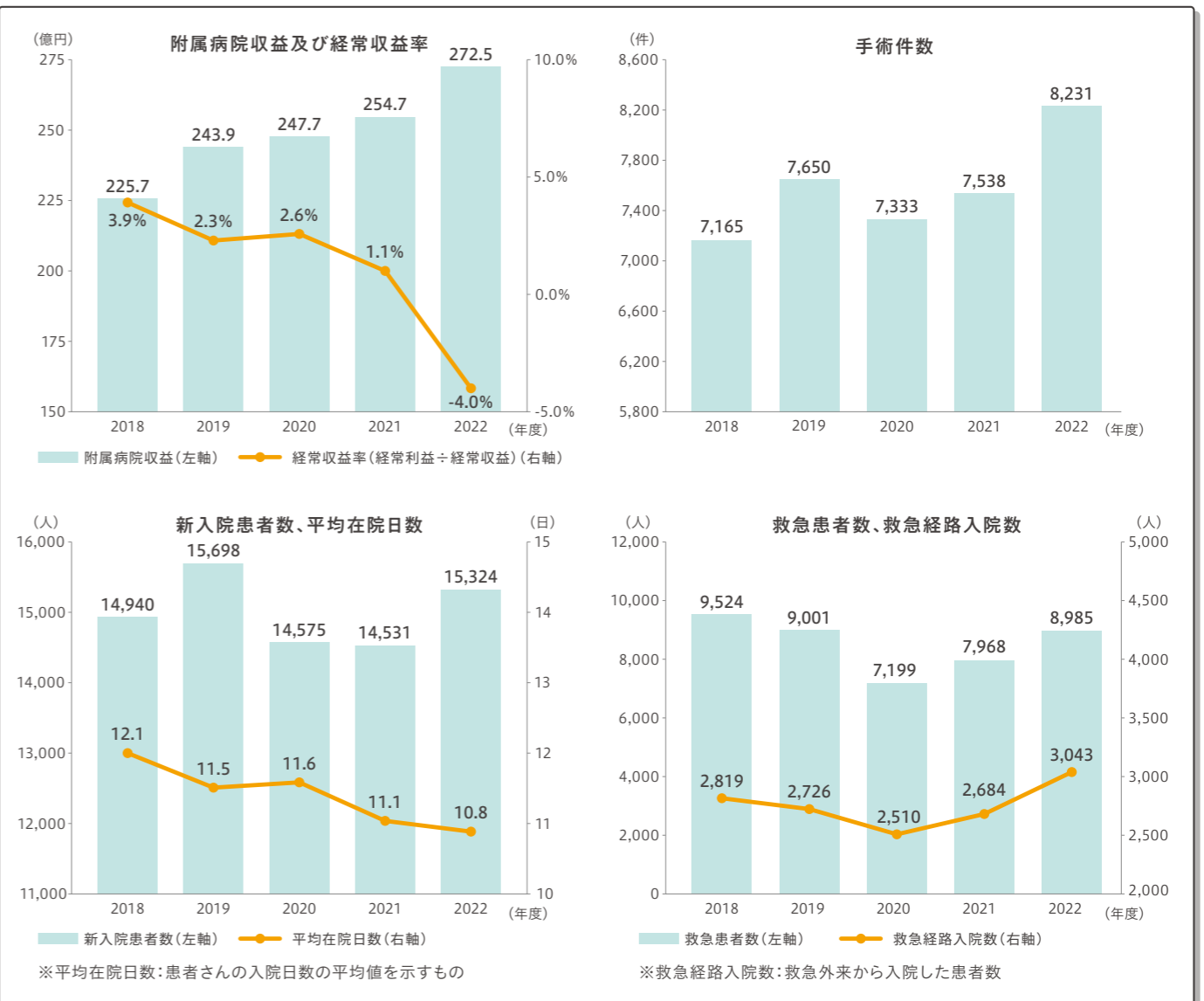
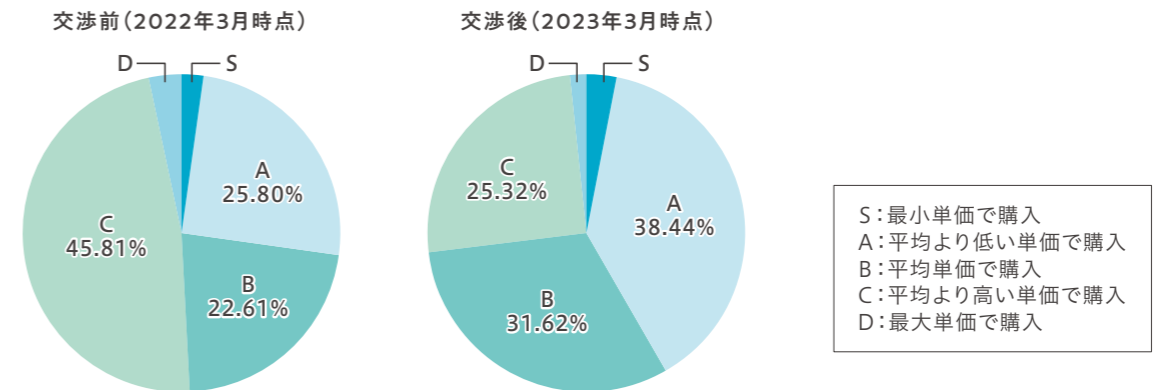
また、近隣連携病院が本院の電子カルテを利用できるようにすることを目的とした外部電子カルテ利用システムについて、仮想化サーバーの構築及び関連する院内規程整備を完了し、7医療機関(公立森町病院、十全記念病院、市立御前崎総合病院、すずかけセントラル病院、浜北さくら台病院、浜松北病院、浜松南病院)との正式契約を行いました。これに伴い外部電子カルテ利用端末の提供を開始し、入院時の情報連携が実現しています。加えて、浜松医療センターにおいても仮想化サーバーが構築され、本院との相互の外部電子カルテ利用端末を用いた情報連携が始まっており、地域医療ネットワークの強化に向けた取組は着々と進行しています。

さらに、収納・展開できる階段状の客席を備え、イベントスペース等として使用可能な多目的ホールが完成しました。災害時に臨時の診療現場として活用できる機能を兼ね備えているため、2021年に整備したトリアージスペース(災害時等に傷病者の重症度に応じて治療・搬送の優先順位をつける作業等を行うスペース)として利用可能な緊急・多機能棟と併用することで、災害時においても地域医療に貢献してまいります。

経費削減の取組

2022年1月に導入した医療材料ベンチマークシステムを活用し、製造業者及び販売業者と面談による医療材料等の購入にかかる価格交渉を実施しました。医療材料ベンチマークシステムとは、同システムを利用している全国の医療機関の医療材料等の品目ごとの購入価格・購入数量を参照し、本院の価格と比較・分析することができるシステム(全国880施設が利用)のことです。分析結果を基に業者と交渉を重ねたことにより、医療材料等の購入にかかる費用を約1億3千万円削減しました。

本院の医療材料の取引金額構成比率



※各金額は単位未満を切り捨てているため、計が一致しない場合があります。

地域の皆様と共に 未来を創る浜松医大

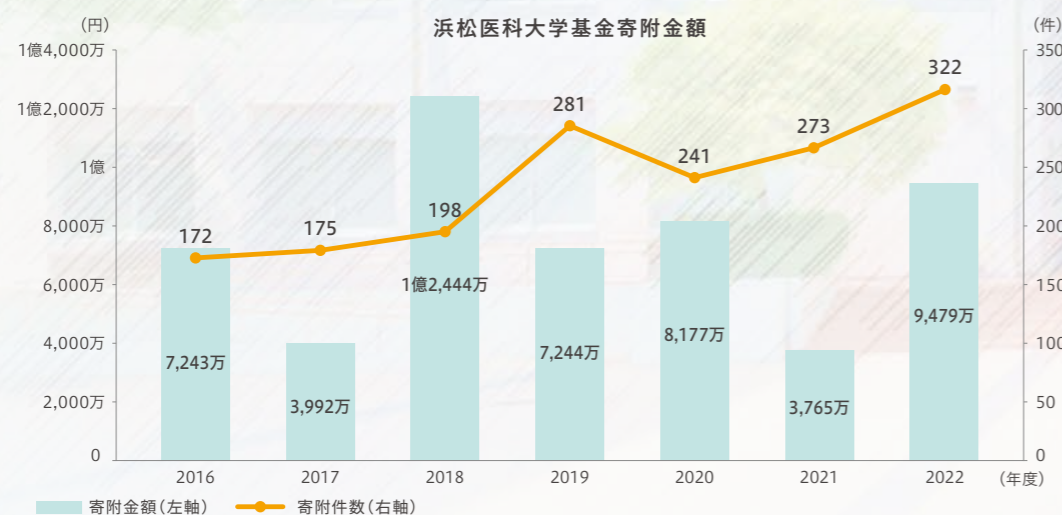
教育・研究・診療及び社会貢献活動を推進していくために募金活動を行うこととし、2016年7月「浜松医科大学基金」を設立しました。浜松医科大学基金によって、医学及び看護学の教育研究に打ち込める環境や様々な交流を行う機会を提供することにより、将来性豊かな多くの若者を優れた医療人や研究者に育てたいと思っています。

浜松医科大学はこれからも地域社会に貢献しつつ、本学の特色を世界に発信していきます。

● 浜松医科大学基金寄附額 (2023年3月末現在)

基金設立より、**1,451名、211企業・団体**の皆様から
5億2,344万円のご寄附をいただきました。

浜松医科大学基金の趣旨をご理解いただき、ご協力とご支援を賜りまして誠にありがとうございます。お寄せいただきました寄附金につきましては、ご意向に沿い、教育・研究・診療・社会貢献等に関する事業を一層充実させるために、有効に活用させていただいています。



web

浜松医科大学基金については、ホームページをご覧ください。
<https://www.hama-med.ac.jp/kikin/index.html>



● 2022年度 浜松医科大学基金を活用した支援の実績

6,366万円

教育研究活動への支援 ～TOEIC受験について支援～

【受験者】
医学科 326名
看護学科 118名
※受験は奇数学年のみ



在学中は、TOEIC受験をはじめ、英語教育を継続しています。国際性の観点だけでなく、異文化や人種等の多様性の理解に必須である英語の修学にも焦点を当てたカリキュラムを実施しています。

キャンパス環境の整備充実への支援 ～武道館の空調設備設置とプールの漏水補修工事～



武道館の空調設備設置によって季節問わず快適に、プールの漏水補修工事によって安全に、学生がサークル活動を実施できるようになりました。

講義実習棟の整備

老朽化した建物の再生とIT時代の様々な最先端技術を取り入れた学修環境、居心地のよいラウンジやアメニティの提供を目標に、2021年度より整備を行い、特別講義室、チュートリアル室など主要部分が完成しました。

新しい什器等を導入することができ、フレキシブルな学修環境となりました。



附属病院への支援 ～医療機能強化棟の整備～

医療機能強化棟(仮称)として整備をしてきました施設は、2022年1月から「先端医療センター」として始動しました。MFICU(母体胎児集中治療室)のベッドサイドモニターも整備し、より安全・安心な医療体制が確保できました。



～術中ナビゲーションシステム、手術用顕微鏡の導入支援～

最新の医療機器を導入することができ、手術件数の増加など、医療環境の充実を図ることができました。



● Topics 2024年、本学は開学50周年を迎えます!

引き続き高度な能力を備えた専門性の高い医師、看護師を養成することはもちろん、世界のトップレベルの研究拠点として、本学が得意としている光を用いた医学研究を発展させます。また、医療のDXを促進し、より安全で高度な先端医療の提供と患者さんの利便性向上を目指したスマートホスピタルを実現します。さらに医療ニーズと、ものづくり地域「浜松」の世界に誇る技術力を掛け合わせて新しい医療ビジネスを創出し、健康・医療産業を確立していきたいと考えています。

本学の教職員一丸となり、地域の「知の拠点」として、地域の皆様や地方自治体、産業界、他の教育研究機関と連携し、地方創生の牽引役としての取組を今後も強化してまいりますので、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



皆様へ

「統合報告書2023」を最後までご覧いただき、誠にありがとうございます。

本学では2021年度から、これまで発行しておりました本学の取組と財務に関する年次報告書である「アニュアルレポート」を大きく見直し、本学の将来ビジョンに向けた取組と現在の進捗状況を、関係されるすべての皆様へ分かりやすく説明することを大きな目的として統合報告書を作成しています。

作成に当たっては、部署横断的組織であるInstitutional Research(IR)室が中心となり、昨年度いただいた皆様からのご意見・ご感想を参考に、将来ビジョンの5つの区分である教育、研究、医療、社会連携・地域連携、業務運営のこれまでの取組から掲載内容を選定し、あわせて、財務諸表等の財務情報を分かりやすい形に整理して構成しています。

この報告書を通して、皆様に本学のこれまでの取組と現在の状況、さらに将来への目標をお伝え出来たら幸いです。また本学に関係される多様な立場の皆様から、忌憚のないご意見をお待ちしています。皆様との対話を通じて、本学の未来、新しい価値を創造してまいりたいと考えています。

2024年に本学は開学50周年を迎えます。学長をトップとしたガバナンス体制の下に、将来ビジョン達成に向けて、今後も教育・研究・医療の新たな取組、さらなる業務効率化等の経営改革を職員一丸となって進めてまいります。

引き続き、ご支援ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

理事(企画・評価担当)・副学長
IR室長 渡邊 裕司

アンケートへのご協力のお願い

統合報告書2023をお読みいただき、ありがとうございました。

本学は本報告書を通して、本学を支えてくださる皆様に大学の将来ビジョンや具体的な取組についてご理解を深めていただき、対話をしていくことでさらなる改善を目指しております。

その一つとして、統合報告書2023をホームページに掲載して、Webアンケートを実施しておりますので、お気づきのことがありましたら、ご意見をいただけますと幸いです。

web

統合報告書ホームページ・Webアンケート

<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/publication/zaimu.html>



[報告対象期間]

2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日)を対象としています。ただし、必要に応じて当該期間の前後についても記載しています。また、財務情報の多くは、2022年度までの情報となっています。

● 情報公開と広報誌/刊行物のご案内

統合報告書2023は、本学の取組と財務情報から、本学の活動を関係されるすべての皆様に分かりやすい内容となるように集約編集したものです。より詳細な内容につきましては、本学ホームページに掲載しています。

浜松医科大学ホームページ

<https://www.hama-med.ac.jp/index.html>



中期目標・中期計画等

www.hama-med.ac.jp/about-us/mid-term-goal/index.html



国立大学法人評価に関する情報

www.hama-med.ac.jp/about-us/disclosure-info/eval-info/daigakuhyouka.html



財務諸表等

www.hama-med.ac.jp/about-us/disclosure-info/financialinfo/financial.html



大学概要

www.hama-med.ac.jp/about-us/publication/gaiyou.html



大学概要

環境報告書

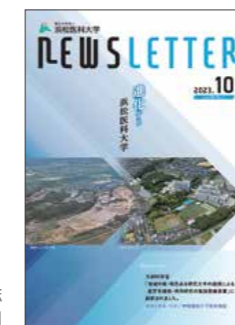
www.hama-med.ac.jp/about-us/mechanism-fig/safety-hygiene/er.html



環境報告書

大学広報誌『NEWSLETTER』

www.hama-med.ac.jp/about-us/publication/newsletter/index.html



大学広報誌
『NEWSLETTER』

附属病院広報誌『はんだ山の風』

www.hama-med.ac.jp/hos/about-us/journal/handayamanokaze/index.html



附属病院広報誌
『はんだ山の風』

関係されるすべての皆様へ